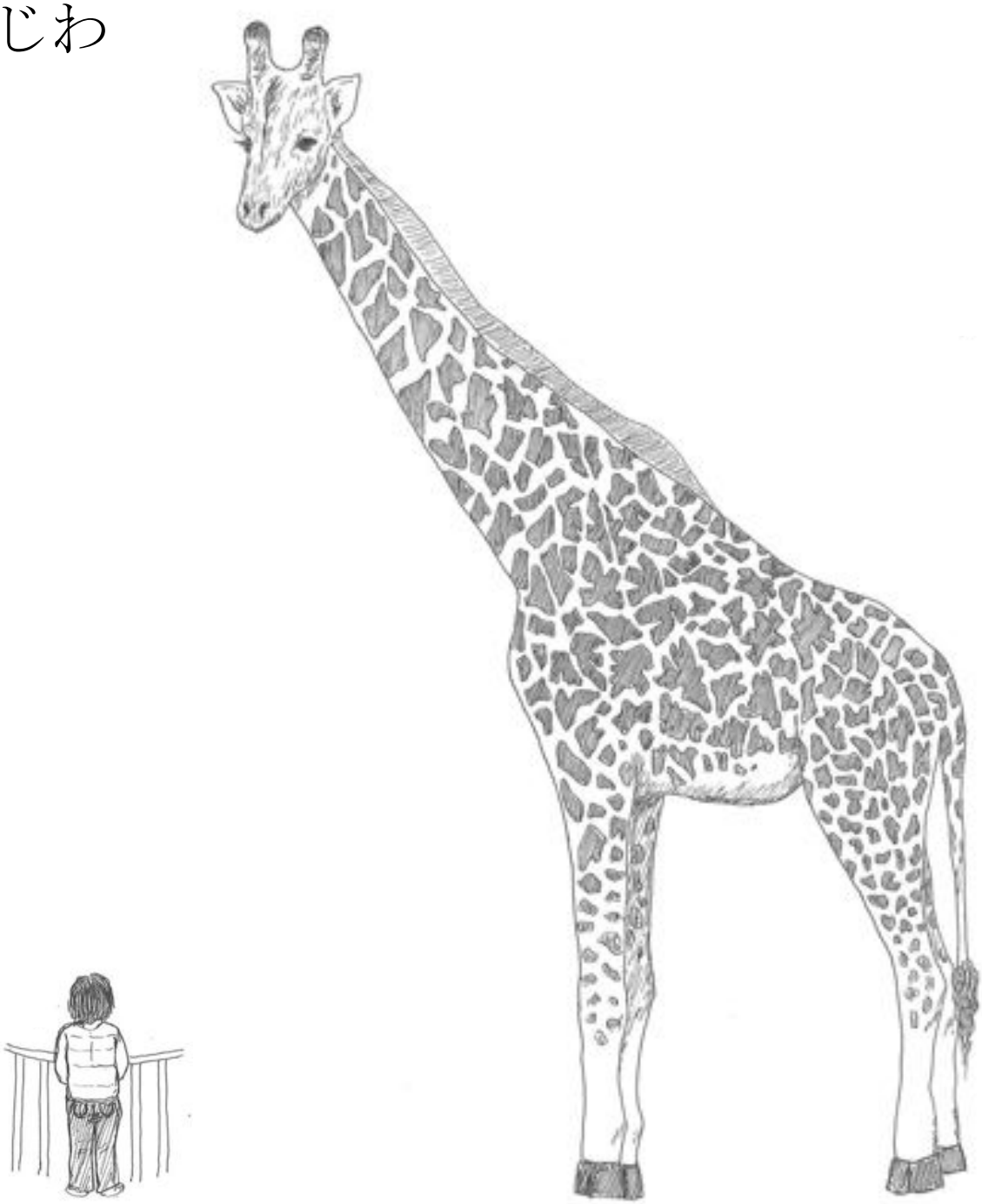
神戸ＹＷＣＡ
夜回り準備会
報告書 vol. 10

じわじわ



はじめに

鍋谷　美子

また例年通り報告書を出せることにほっとしています。いつまで続けられるかと思いながら、夜回りも続いています。夜回りで出会う人の減少とともに、活動をどういう形で続けていく／いかないのかの話も少しずつ出てきています。

今回の報告書は、なかなかのボリュームになりました。最初に例年通り、1 年間のふりかえりと、大きく変化のあったアルミ缶持去り禁止条例について書いています。「私たちの知ってる佐々木さんのこと」では、このかんに亡くなった人について。「野宿もゆるされない時代」では、世界で起こっている変化と、私たちの直面している状況を考える内容が書かれています。「誰のための都市？～フィリピン・マニラで考える～」では、今フィリピンにいるメンバーが、現地で感じ考えたことを報告してくれています。合間に入っている「私、リストラされまして」は、初の漫画レポートで、メンバーのリストラ経験を描いてくれました。また、報告書をつくっている最中に分かったセクシュアル・ハラスメントの問題について、「続いている問題」で、取り上げています。最後に「一粒の価値」では、メンバーが夜回りで感じたことを、表現してくれました。

感想も含め、それぞれが感じたことが表現された分厚い報告書となった 10 冊目。この 10 年にあったことを振り返りながら、自分達にとっても、読む人にとっても、現状を考えるきっかけになればと思います。

【表紙解説】
佐々木さんときりん（「私たちの知ってる佐々木さんのこと」参照）。こうして何時間もきりんを眺めていたんだろうな、と想像して描いた。おかっぱの佐々木さんを思い出す。（なべ）

もくじ

0．はじめに ……鍋谷　美子　1

1．1年を振り返って ……野々村　耀　3

2．私たちの知ってる佐々木さんのこと ……鍋谷　美子　16

a.　私、リストラされまして・前編……○（マル）　20

3．野宿もゆるされない時代 ……野々村　耀　23

b.　私、リストラされまして・中編……○（マル）　27

4．誰のための都市？～フィリピン・マニラで考える～ ……藤原　尚樹　30

c.　私、リストラされまして・後編……○（マル）　36

5．続いている問題 …… 鍋谷　美子・金本　美子　39

6．一粒の価値 ……池田　桂子　41

7．それぞれの感想 ……42

8．会計報告・カンパお礼 ……48

一年を振り返って（2013 年 8 月～2014 年 7 月）

野々村　耀

昨年と同様、定例の活動については簡単に報告し、主にアルミ缶条例＝資源ごみ持ち去り禁止条例改正の問題に関して報告します。

★ 夜回り

今年も、従来どおり毎月第二・第四土曜に行いましたから、年間 24 回。昨年も会える人は少なくなったと書きましたが、その傾向は続いています。昨年同様に簡単にまとめた表です。

	最多	最少	総計	平均
参加者	7	3	104	4.3
訪問先	10	6	114	6.8
会った人	6	4	128	5.3

去年は 1 回の夜回りで出会った人の平均は 6.5 人でした。今年は 5.3 人で一人減ったことになります。 しかしこれは 2014 年 7 月までの数字で、8 月に一人の方が亡くなり 10 月に一人の方が生活保護を受けることになったので、今は更に少なくなりました。亡くなった方については鍋谷さんが、夜回りで出会う人については池田さんが、感想を書きました。

夜回りに関して、ある晩、遠方から参加した人が、S さんに「○○から来た・・・です」と自己紹介して、「見学に来ました」と言いました。S さんはすかさず、自分は見学の対象ではないと怒りました。普通、初めての人にはガイダンスをするのですが、その時は間に合わなくて、途中で合流し、ガイダンスなしだったのが問題でした。

★ 病院訪問

毎週木曜日に、入院している方を訪問しています。参加者は 1～2 名、訪問先も 0～2 名です。訪問を始めたのは、野宿していた人が病気になって入院したとき、役所は入院中しか保護せず、退院するとまた野宿になるのはおかしいと思ったからでした。そういう状況では先が見えないので、最後まで治療しないで途中で退院したりすることが多かった。それで、退院後も生活保護を受けられるから心配しないように伝えたいと思って、訪問してきました。

アルコールの問題が気になっています。訪問している人が、病院からいなくなっていました。

事情を聞くと、飲酒して強制退院になったとのこと。病院は断酒につながる指導をできないものだろうかと思います。

★ 個人情報保護

最近は役所も病院も個人情報保護のために、私たちが知りたいことを教えてもらえない場合が増えました。「Y さんが入院して、アパートを引き払った。どこに入院したか役所は教えてくれない。」と家主さんから連絡があったので、役所に「本人に教えてもいいか聞いて、いいといえば教えてください」と頼んだところ、少しして「既に亡くなっています」と知らされました。

★ 生活保護を受けたあと

バイトを掛け持ちでして、保護費と同じ収入になった途端に打ち切ると言われ、収入が多いのは今月だけだから、切るのは待って欲しいといったが、聞いてもらえないので、もういいと言ってしまった人がいました。収入が安定してから保護廃止にするべきだと思います。13 年 8 月、14 年春、

15 年春と 3 回に分けて保護費が平均 6.5%減らされ、13 年 8 月には福祉パス（生活保護を受けている人などが市営のバスや地下鉄を無料で利用できるパス）が廃止され、14 年春には消費税が 8%に増額され、生活保護を受けている人も暮らしにくくなりました。

★ 襲撃に関して

昨年は、襲撃に関すること、特に神戸市の教育委員会への要望などについて書きました。その後についての報告です。

2013 年 8 月 5 日に、K さんが住んでいるガード下で、ぼやがありました。本人のいないときでしたし、火の出るはずのない場所で物が燃えていたので誰かの放火だと思われます。その後すぐに、消防か警察が「立ち入り禁止」と書いた黄色のテープでその場所を封鎖し、10 月には金網で立ち入りできなくされました。

その他には 2013 年 9 月 5 日と 9 月 20 日にある公園で投石がありましたが、それ以降はありませんでした。

子供がそういうことをすることも多い（もちろん大人がすることもあるのですが）ので、私たちが知った時にはその都度、教育委員会の「指導部人権教育課」に連絡し、野宿している人の人権を子供にどう伝えるか考えて欲しいと訴えています。去年も書きましたが「大きな事件が起こってからでは遅い」と思うからです。

11 月 27 日人権教育課の人たちに、冬の家（神戸での越年活動）の案内をし、3 人来てくれました。誠実に取り組んでくれてはいますが、いじめなど課題が多いので、「ホームレス問題」に集中することは難しいようです。

2014 年 2 月 20 日に市教委を訪問しました。『ホームレス問題に関する資料集』の改訂の進行状況を聞きました。可能なら当事者の話を聞きたいとの話もありました。

2014 年 5 月 1 日、空き缶条例に関する申し入れの帰りに、市教委・人権教育課に、異動があったのか確かめに立ち寄ったところ、スペースがひどく狭くなっているので驚きました。中学の給食が始まり、担当者が増えたためだそうで、人権教育課が縮小されたわけではないそうです。「ホームレス」問題の改訂教材や DVD を用いて、先生に指導しはじめたことを聞き、改訂した資料をもらいました。アルミ缶条例が、襲撃の引き金になりうることを話しました。

★ 資源ゴミ持ち去り禁止条例に関して（この問題は、2014 年秋までの期間を扱います）

2013 年 10 月に新聞が「神戸市は条例（「神戸市廃棄物の適正処理、再利用及び環境美化に関する条例」の一部を改正）によって、 ゴミ置き場から空き缶など資源ゴミを持ち去ることを禁止しようとしている」と報道しました。

神戸の冬を支える会は神戸市がパブリックコメントを求めたのに対して、「缶を集めて生活している人の意見を聞くように」というコメントを送りました。

この条例の内容は「資源ゴミを持ち去ることを禁止する。注意しても聞かない違反者には 20 万円以下の罰金を科すことができる」というものです。

夜回りで出会う人（野宿している人）に、「こんな条例ができそうだが、どう思いますか」と尋ねると、「そんなことはできっこないから、心配していない」という人もいれば、集められなくなったら生活できなくなる」と心配する人もいました。

心配している T さんが神戸市の＜市長への手紙＞という仕組みを使って、市長に「アルミ缶集めを禁止されては困る」という手紙を送りましたが、なかなか返事はきませんでした。

神戸 YWCA 夜回り準備会も神戸市広聴課を通して、市長に対して 5 月 1 日付で「いわゆる空き缶条例に関する申し入れ」を提出しました。（＊資料 1：以下、資料は文末に収録）

簡単に言えば、①市は「神戸市廃棄物の適正処理、再利用及び環境美化に関する条例」の一部を改正し、資源ゴミの持ち去りを禁止し、市長は持ち去った者に禁止を命令し、違反者に 20 万円以下の罰金を科すことができるとしました。私たちは 1995 年の震災以来、住まいのない人の支援を続けてきました。

②野宿している人は「あらゴミ集め」等、都市雑業によって生活してきましたが、国の「家電リサイクル法」や、神戸市の「ゴミ回収方法の厳格化」によって、継続しにくくなり、アルミ缶集めがわずかに残された収入源となりました。それさえ禁止されると生存権が脅かされ、また近隣住民とのいさかいが心配されます。空き缶集めを禁止しないように、また当事者と真摯に話し合うように要請します。生活保護を勧めれば済むというものではないと考えます。(このことに関しては別に書きます)

この申し入れをしたとき、「市長への手紙」に対しても回答するように要請しました。

5 月 10 日、T さんに神戸市長名の返事が来たのですが、「例外は認められない」というものでした。

そして 6 月 6 日、夜回り準備会宛に神戸市長から回答（＊資料 2）が届きましたが、市の主張を繰り返すだけで、野宿している人の側の要望には答えていません。

このころ野宿している人に対して、神戸市は「10 月から禁止する」というビラを配りました。（＊資料 3）

また、各区役所には両面印刷のビラが置かれました。表面は資料 3 と同じですが裏面に印刷された注意事項の中に「持ち去り行為を目撃しても、その場で問い詰めたり、無理な制止などを行わないでください」という項目がありました。（＊資料 4）

（神戸市ウェブページより）

それを受けて　私たちは 8 月 7 日に再申し入れをしました。（＊資料 5）両面のビラの「無理な制止をしないようにという」との注意書きは我々の申し入れの趣旨を汲んだものと思われますが、その意味を周知して欲しい、どのように説明しているのか知りたいと訴えました。

市長からは別紙のような回答がありました。（＊資料 6）その中に、「持ち去り行為を目撃しても、その場で問い詰めたり、無理な制止等をしない」という文言をチラシに掲載した理由は、市民の皆様が持ち去り者に注意することで、トラブルに発展する恐れもあるため、注意喚起の目的で掲載いたしました。とあるので、いくらか配慮しているのかと考えました。

しかし実施時期10月1日の前に全世帯に配られた神戸市の広報には、禁止することになったことだけが書かれており、「制止しない、とがめない」という注意は書かれていませんでした。(＊資料 7)

このようにして、生活する基盤が少しずつ削りとられていくことが、何を意味するのかについては、改めて書きます。

（ののむら　よう）

資料１　神戸市への申し入れ①

2014 年 5 月 1 日

神戸市長　久　元　喜　造　様

神戸 YWCA 夜回り準備会
代　表　　鍋谷美子
神戸市中央区二宮町 1-12-10

いわゆる空き缶条例に関する申し入れ

神戸市は、「神戸市廃棄物の適正処理、再利用及び環境美化に関する条例」の一部を改正しました。

資源ごみの持ち去りを禁止し、市長は持ち去りを行ったものに禁止を命令することができ、この命令に違反したものに 20 万円以下の罰金を科すことができるというものです。

私たち、神戸 YWCA 夜回り準備会は、住まいを持っていなかった人たちが、阪神淡路大震災の後、救済・救援の対象にならなかったことから、支援活動を始めました。そして私たちはその延長として、住まいを持っていない人たちへの支援活動を現在まで継続しています。生活保護の適用、一方的強制排除、入院患者の退院後の処遇（希望者には退院後の生活保護・そのための敷金支給）など、野宿している人をめぐる問題提起を行い、その人たちの人権状況の改善を求めて神戸市とも話し合いを重ねてきました。

野宿している人の一部は、震災後の解体工事や建設工事に従事し、一連の工事が終わると失業し、いわゆる都市雑業によって生活してきました。中でも廃棄された家電製品や家具などを回収して、寄せ屋さんやリサイクルショップに買い取ってもらうという仕事は、野宿生活者の生活のためには非常に重要でした。

しかし、平成 13 年施行の家電製品リサイクル法によって、決められた家電製品をゴミとして出すことが禁止されたため、収集できなくなり、また、近時、神戸市の「ゴミ回収方法」が厳格化され、指定の袋に入れることができないものはゴミとして出せなくなったために、家具等の入手が困難となりました。（家具などは袋に入れるためにばらばらにされるので、売り物にならない）。　そこで、生活の原資となり得る仕事として最後に残ったのが、「アルミ缶回収」です。そのため、多くの人が同じ仕事に参入することとなり、アルミ缶回収によって生きていくことは大変困難になってきました。現状では、野宿していないが生活に困窮しているという人でさえもアルミ缶集めをするようになっています。

こうした状況の中で、「アルミ缶を集めることが禁止される」ことになると、それによって暮らしている人たちは、生きていくことができません。住まいがあっても餓死する人が続出する状況です。

市は、野宿している人に「説明する」といっていますが、説明されても、禁止されては生きていくことができません。トラックで乗り付けて、大量にアルミ缶を持ち去るような業者に対応する必要性は理解できなくありません。しかし、アルミ缶回収によって、やっと暮らしている人から生きる権利を奪うことはやめて下さい。特に、地域の人との関係が悪化しかねないことが心配です。泥棒といわれたり、追い払われたりすれば、思わぬ結果を生むかもしれません。

また 市は、生活保護を受けるように勧めればよいとお考えかもしれませんが、様々な事情でそうできない場合もあります。このことは、保護申請の厳格化に関しても、議論されたことです。苦しい中で懸命に暮らしている人々の尊厳を、生きることを、守ってください。野宿している人が空缶集めすることができなくならないように要請します。

そして何よりも、それによって暮らしている人との真摯な話し合いを求めます。
当事者との真摯な話し合いが人権問題を解決する唯一の仕方ですから。

資料２ 神戸市からの回答①：H26 年６月６日

神市広聴第 026599 号
平成 26 年 6 月 6 日

神戸ＹＷＣＡ夜回り準備会
代表　鍋谷　美子　　様

神戸市長　久元喜造

時下、益々ご清祥のこと大喜び申し上げます。

このたび頂戴しました申し入れにつきまして、回答させていただきます。

ご承知のように、神戸市は、「神戸市廃棄物の適正処理、再利用及び環境美化に関する条例」の一部改正を行い、平成 26 年 10 月 1 日より、クリーンステーション等からの資源物等の持ち去り行為を禁止することとしました。

近年、地域ごとに決められた日に排出された資源物等を、クリーンステーションから無断で持ち去る行為が多発しておりますが、ごみの持ち去り行為による騒音や、散らかしなどの苦情が多く寄せられており、さらに市としても、持ち去り行為により袋を破られることで、収集作業がスムーズに行えないなど収集作業にも支障を来しております。

こうした行為は、市民と協働で行っている家庭ごみの減量・資源化に悪影響を及ぼし、分別意識の低下につながる行為であり、もはや放置することができない状況となっております。

平成 16 年の 6 分別収集開始以降も、数度にわたって分別ルールの変更を市民の皆様にお願いし、変更の都度、環境局が責任をもって資源循環ルートに流すということを、丁寧に説明をし、ご協力をお願いしてきました。そうした中で、市民の皆様には、洗浄・分別、指定袋の購入などのお手数・ご負担をかけながらも、一定の理解が得られていると考えております。

現行の収集方法・リサイクルシステムは、このように市民と協働で、市民の理解を

得ながら、長い時間をかけて作り上げてきたものであり、決められた日に、決められた場所に、ご購入いただいた市の指定袋に入っているなど、市民の皆様に一定の負担をお願いして、市が定めたルールに従って適正に排出されたごみについては、市としては収集・処理する責務があります。

どうぞ本制度の趣旨をご理解いただきますようお願いいたします。

神戸市では「神戸市ホームレスの自立の支援等に関する第３次実施計画」に基づき、自立の意思がありながらホームレスとなることを余儀なくされている方々に対し、生活・健康相談を粘り強く継続し、自立に向けた支援を行っています。今後も個々の状況に応じて就労支援など、きめ細やかな対応に努めていく必要があると考えています。

路上（野宿）生活を送られている方で生活の目途が立たない場合は更生センター等にご相談ください。また、住居のある方で生活に困ることがある場合は各区の福祉事務所にご相談ください。

〇神戸市立更生センター

・住所　　：神戸市中央区割塚通１丁目２番20号

・電話番号：078-221-0180

回答は以上となります。今後とも神戸市政にご理解とご協力をお願いいたします。

【担当】　環境局資源循環部業務課　電話：078-322-5292

保健福祉局総務部保護課　電話：078-322-5201

資料３　野宿している人に向けてのビラ

平成26年10月1日からクリーンステーションからの資源物等の持ち去り行為を禁止します。

＜持ち去りが禁止される物＞

○缶・びん・ペットボトル

○家庭用電気製品

（電気掃除機、電子レンジ、ステレオなど）

○家具類（タンス、食器棚、机、イスなど）

○その他金属を使用した製品

（自転車、鍋、ストーブなど）

【お問い合わせ先】神戸市環境局業務課　TEL078-322-5292

資料４　自治会等への配布ビラ

資源物の持ち去り禁止

クリーンステーションからの資源物などの持ち去りを禁止します。

①目的

・持ち去りによる散らかしや騒音をなくし、地域の美化を推進します。
・ごみの減量やリサイクルを推進します。

②実施時期　　平成 26 年 10 月 1 日

③クリーンステーションから資源物の持ち去り禁止

資源物（缶、びん、ペットボトル、家庭用電気製品、家具類などの大型ごみ、その他金属を使用した製品）をクリーンステーションから持ち去ることを禁止します。

④持ち去りを行わないように警告・命令

クリーンステーションに出された資源物の持ち去りを行う者に対して、市長は持ち去らないように警告したり、命令することができます。

⑤命令に従わない場合

命令を受けたにもかかわらず、その後も持ち去りを繰り返した場合には、条例に基づき、２０万円以下の罰金が科されることがあります。

（裏面をご参照下さい）

＜お願い＞

◎夜間早朝の持ち去り防止のため、収集日の午前５時から午前８時の間に排出してください。

◎持ち去り行為を目撃しても、その場で問い詰めたり、無理な制止などは行わないで下さい。

◎資源物の持ち去りでお困りの場合は、下記までご連絡下さい。

連絡先：神戸市環境局資源循環部業務課
神戸市中央区加納町６丁目５番１号
（神戸市役所３号館６階）
○電 話：078－322－5292
○F A X：078－322－6061
○メールアドレス：kankyogyomu@office.city.kobe.lg.jp

※お寄せいただきました情報等につきましては、神戸市個人情報保護条例に基づき、他の目的に利用・提供しないとともに、適正に管理いたします。

資料５　神戸市への申し入れ②

2014 年 8 月 7 日

神戸市長　久　元　喜　造　様

神戸 YWCA 夜回り準備会
代　表　　鍋谷美子
神戸市中央区二宮町 1-12-10

いわゆる空き缶条例に関する再度の申し入れ

さる５月１日に私たちは「神戸市廃棄物の適正処理、再利用及び環境美化に関する条例」の一部改正に関して申し入れをいたしました。

１　アルミ缶等を集めることは野宿している人にとって、極めて重要な収入源であるから、禁止して生きる権利を奪うことはやめてほしい。

２　この条例は、地域の人との関係が悪化させかねない。泥棒といわれたり、追い払われたりすれば、思わぬ結果を生むかもしれません。

３　市は生活保護で解決すると考えているようだが、そうできない人もいる。

４　この件について、それによって暮らしている人との真摯な話し合いを求めます。

1「禁止しないでほしい」については、市の回答は「例外を認めない」というものでした。

2 に関しては、配布されたビラの裏面の第二項に「持ち去り行為を目撃しても、その場で問い詰めたり、無理な制止などを行わないで下さい」とあるのが、答えであると理解し、これが実行されて、関係の悪化が避けられることを望みます。　そこで、このことがどれだけ周知されているか、各自治会や婦人団体などにこれが何を意味するか、どのように説明されているか教えて下さい。ここに印刷しただけでは理解困難だと思います。

3 については、説明がありません。

4 も、野宿する人の声や意見を聞き真摯に話し合ったとは思えません。このことは神戸の冬を支える会もパブリックコメントで指摘したことです。

資料６　神戸市の回答

神市広聴第 028293 号
平成 26 年 9 月30日

神戸ＹＷＣＡ夜回り準備会
代表　鍋谷　美子　　様

神戸市長　久元喜造

時下、益々ご清祥のこと大喜び申し上げます。

このたび頂戴しました申し入れにつきまして、回答させていただきます。

「持ち去り行為を目撃しても、その場で問い詰めたり、無理な制止等を行わないで下さい」というチラシの文言ですが、問い詰めたりしない旨をチラシに掲載した理由は、市民の皆様が持ち去り者に注意することで、トラブルに発展する恐れもあるため、注意喚起の目的で掲載いたしました。

なお、このチラシは、自治会や婦人会などを始めとし約２万部を配付し、神戸市のホームページにも掲載しております。

また、平成 26 年 5 月 20 日から、市内を巡回し野宿する方たちに、持ち去り禁止の制度に関して趣旨を説明した上で、意見も頂戴しております。

前回の回答同様、重ねて申し上げますが、市民と協働で、市民の理解を得ながら、長い時間をかけて作り上げてきた、現行の収集方法・リサイクルシステムのもと、決められた日に、決められた場所に、ご購入いただいた市の指定袋に入っているなど、市民の皆様に一定の負担をお願いして、市が定めたルールに従って適正に排出されたごみについては、市としては収集・処理する責務があります。

どうぞ本制度の趣旨をご理解いただきますよう、お願いいたします。

また、自立の意思がありながらもホームレスとなることを余儀なくされている方々に対しては、日頃よりホームレス巡回相談員等が個別に声掛けをしてそれぞれのご希

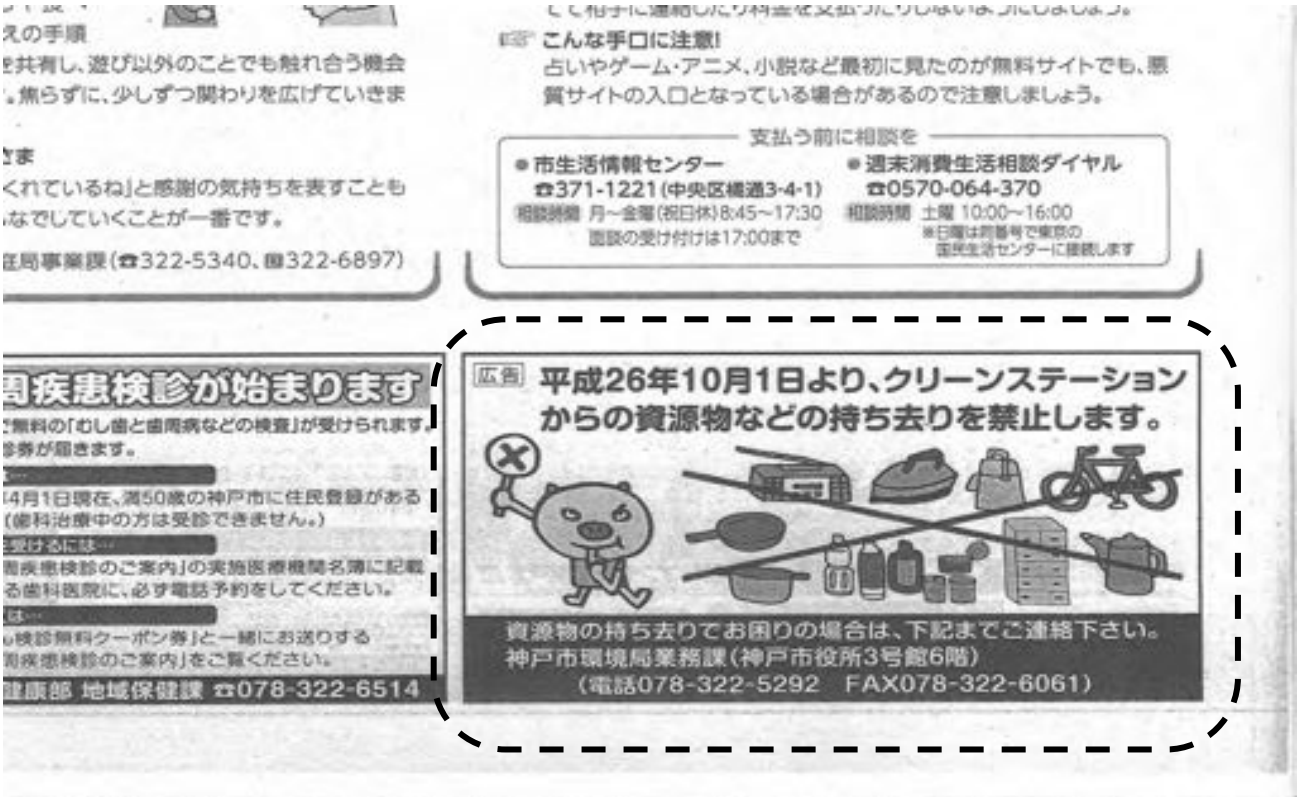
望を聞きながら支援をしているところです。

条例の施行にあたり、環境局の職員がホームレスの方々に制度の説明をしていますが、その際、ホームレス巡回相談員等も同行し生活相談ができる体制をとってまいりました。

今後とも、ホームレスの方々には、居宅の確保や生活保護の申請を支援していくとともに、何らかの理由で生活保護を申請されない方々に対してはホームレス巡回員等が粘り強く声掛けに努め、自らの意思で安定した生活を確保できるよう、NPO が実施する就労支援事業等を紹介し支援していきます。

【担当】環境局資源循環部業務課　　電話：078-322-5292
保健福祉局総務部保護課　　電話：078-322-5201

資料７　神戸市広報より抜粋



こんな手口に注意!
占いやゲーム・アニメ、小説など最初に見たのが無料サイトでも、悪質サイトの入口となっている場合があるので注意しましょう。

支払う前に相談を

● 市生活情報センター
☎371-1221(中央区橘通3-4-1)
相談時間 月～金曜(祝日休)8:45～17:30
面談の受け付けは17:00まで

● 週末消費生活相談ダイヤル
☎0570-064-370
相談時間 土曜 10:00～16:00
※日曜は同番号で東京の国民生活センターに接続します

久の手順
共有し、遊び以外のことでも触れ合う機会
。焦らずに、少しずつ関わりを広げていきま

ま
くれているね」と感謝の気持ちを表すことも
なでしていくことが一番です。

住局事業課(☎322-5340、FAX322-6897)

周疾患検診が始まります
無料の「むし歯と歯周病などの検査」が受けられます。
診券が届きます。
4月1日現在、満50歳の神戸市に住民登録がある
(歯科治療中の方は受診できません。)
受けるには…
周疾患検診のご案内」の実施医療機関名簿に記載
る歯科医院に、必ず電話予約をしてください。
は…
検診無料クーポン券」と一緒にお送りする
周疾患検診のご案内」をご覧ください。
健康部 地域保健課 ☎078-322-6514

広告 平成26年10月1日より、クリーンステーションからの資源物などの持ち去りを禁止します。

資源物の持ち去りでお困りの場合は、下記までご連絡下さい。
神戸市環境局業務課(神戸市役所3号館6階)
(電話078-322-5292　FAX078-322-6061)

私たちの知ってる佐々木さんのこと

鍋 谷　美 子

※本記事に登場する個人は全て仮名です。

佐々木さんが突然、いなくなった。2014 年の 7 月 27 日。7 月の第 4 土曜に夜回りに行くと、ちょうどその時間帯佐々木さんの住む場所から、芦屋の花火大会の花火が見えるのだった。それで、ここ数年、一緒に花火を見るのが、夜回りでの習慣になっていた。その日、出発前のトラブルで遅れた私たちはまんまと花火渋滞に巻き込まれ、着いたときにはもう花火は終わっていた。佐々木さんの車はからっぽで、ドアは開けっぱなしだった。待ってたのに私たちが遅いのでイライラして、どこかへ行っちゃったのかなぁ、でも、佐々木さんに会えないことなんて本当に珍しかったし、ドアが開けっぱなしなんてなかったなぁ、と。ただ遅れたことを後悔した。

でもそのときには、もう佐々木さんはいなかったのだった。

私たちの知る限りの佐々木さんのことを、書いてみようと思う。

＊　＊　＊　＊

寒いのは平気、暑いのは無理。昔真夏に冷凍倉庫で働いていて、温度調節がおかしくなってしまったんだと話していた。外は 40 度にもなるかという暑い間、マイナス 50 度の冷凍庫と出たり入ったりを繰り返し、体がおかしくなったんだ、と言っていた。冬でも半袖だけど、周りの人が（野宿だから）服がないのかと思って心配してくるのが嫌だから、とダウン的なものを着ていた。中は半袖だったんだけど。

佐々木さんは、ここ数年夜回りに行くたびずっと、饒舌だった。昔はそんなに喋る人だとは思ってなかった。私が夜回りに参加してからの約 10 年、場所を一度移り、パートナーの菊次郎もいなくなり、少しずつ周りのひとたちもいなくなったり居宅になったりで、夜回りで一人一人と話す時間が増えていったこともあるのかもしれない。持って行くカイロや食べ物も、不自由してないからいらない、と言っていたのが、最後のほうは必要なものを少しずつ受け入れてくれてた気がする。

菊次郎と隣人たち

佐々木さんと私たちが最初に出会ったのは 2002 年の 11 月だった。ある橋横の空地にすでに住んでいたほかの人たちから、もう一人いると教えてもらった。そのすぐくらいから、白い犬を飼っていた。名前は菊次郎。そばに住んでいた菊池小次郎さんの名前を短縮したと言っていた。そのときそこには菊池さん、小西さん、大上さん、佐々木さん、4～5 人がいただろうか。ときどきみんなで一緒に飲んでいた。菊次郎も一緒に飲んでいて、獣医に糖が出てると言われたそうだ。菊次郎は、阪神電車に轢かれ（かけ？）たらしい。それで阪神電車を止めたのだそうだ。

2005 年の春、菊池さんが、阪神電車に飛び込んで亡くなった。身体がしんどくて、初期費用なしで入れてくれる大家さんにお願いしてアパートに入り、保護を受け始めてしばらく経った時期だった。菊池さんの遺体は病院の遺体安置室に運ばれ、そこで周囲に住んでた人何人かと夜回りメンバーでお別れをした。佐々木さんと菊池さんのことを話すと、アパートに入ってから、野宿していたこ

ろの人間関係がなくなってしまい、孤独になったのが、菊池さんが亡くなった原因ではないかと言っていた。菊池さんは部屋にこもりっきりで、オートロックだったアパートに誰かが訪ねて来ても中に入れなかったそうだ。以前のように、一緒に誰かと飲んだり、場合によっては飲みすぎをたしなめてくれる人はいなかったのだろう。

その頃、ほかにも居宅になってからすぐに病気で亡くなってしまった人がもう一人いた。家に入ったら死ぬ。野宿をしている人がそう話していたこともあった。そういう側面があることを考えさせられた。

菊次郎はどんどん大きくなり、夜回りに行くたびにぎゃんぎゃん吼えてじゃれてくる白い巨大な犬になった。体重は 30kg 超。29kg 以上は大型犬になり、予防注射代など 1 万数千円するんだそうだ。粗ゴミやアルミ缶を集めて、生活と、菊次郎のためのお金に使っていた。夜回りのとき菊次郎がじゃれついてくると、犬が苦手な人はちょっと怖かっただろう。なので、この頃佐々木さんとはそんなに長く話はしてなかったような気がする。

きくじろう

佐々木さんはよくゴルフをやっていた（一人打ちっぱなし的な）。だいたい話題は菊次郎だった。

追い立てと襲撃

2006 年の末に、その空き地一帯に住んでいる人が一斉に追い立てられるということがあった。佐々木さんに話を聞くと、みなと総局（神戸市の港湾管理をする部局）の人が「自治会から苦情が出ている」と言ってきたそうだ。そのとき佐々木さんの顔見知りの自治会長の姿が見えたので、そうなのかと聞くと、「そんなことはない」と。みなと総局の人は、ばつの悪そうな顔をしていた。佐々木さんは、出て行かせたいなら、ちゃんとした書類を持ってこいと怒った、という話だった。わたしたちからも市に対して何か言おうかと聞くと、「もう終わったからかまわない」と言われた。

その後、空き地横の橋脚を塗りかえる工事があるから、資材置き場にするので立ち退くようにというような話が出てきた。空き地の目の前の工場が取り壊しになり、その跡地に大きなマンションが建った。結局、そのための追い立てだったのかという気もする。

2007 年の 3 月には、襲撃が起こった。佐々木さんの自動車の側面と、小西さんの自動車の後部のガラスが割られた。何度もあったようだ。上から石やモノを投げてくる。たまたま車から離れた場所にいたとき、物音がしたので自転車で追いかけて 3 人の襲撃者の内、1 人を捕まえ、近所の人が警察を呼んでくれて、交番に行った。襲撃者は中学生だった。親も呼ばれた。親はその子の罪を否認するが、警官は「現行犯ですから」という。捕まった子は近くの中学校の 3 年生。もうしないということで学校には言っていないとのことだった。

襲撃については、気をつけてと言われても何をどう気をつけたらいいのか、殺されるのも覚悟している、と話していたときもあった。

その 3 月末で撤去だとみなと総局が言ってきた。佐々木さんは、近くの廃車に移るという。すでに

工場は解体され、マンション工事が始まるところだった。

菊次郎とともに、廃車に移った佐々木さんだったが、そちらは下がアスファルト。白くふさふさの毛に覆われた菊次郎には夏が越せるかなぁと心配していた。しかし佐々木さんも、車が熱せられてすごいことになりそうだった。結局、菊次郎は佐々木さんの友人のところに貰われて行き、さらにその友人の離れた家族に気に入られ、すぐに会いにいける距離にはいなくなってしまった。ときどき菊次郎の近況を教えてもらったが、その後、亡くなったと聞いた。

佐々木さんは目が見えにくかった。だいぶ経ってから聞いたが、子どもの頃から右目が見えなかったのだそうだ。片目が見えない代わりに耳が敏感になったと言う。2004 年のある 3 ヶ月間に連続で 3 回病院に運ばれる。自転車に乗っていて右から車が来ていることが分からず、接触事故に遭った。3 回の事故では、頭を 10 数針、10 針、6 針縫った。3 回目の事故の後、右肩が後ろに回りにくくなったが、生活に支障はないと言っていた。

夜回りで何か持って行ったものを手渡すときも、手の近くまで持って行くか、車内に置くようにしていた。でも、言われなければ誰にも見えていないとは分からなかったと思う。自分でもそのことはわざわざは話さなかった。毎年の花火のときも、私たちがわぁわぁ言う横に佐々木さんもいたけれども、花火はほとんど見えていなかったのかもしれない。

キリンが好きすぎる

王子公園のキリンが一頭亡くなったんやで。王子公園で 3 時間寄ってくるのを待っていたのに、隣にいた子供に阻止された。キリンの眠る格好や出産をテレビで見たわ。キリンがどうやって寝るか、知ってるか？

佐々木さんはキリンが大好き。一日見てても飽きない。と、キリンの生態について、よく話してくれた。わたしはキリンについてこんなに饒舌に語る人に初めて会い、キリンについて、多くを佐々木さんから学んだ。天王寺動物園と、王子動物園のキリンたちが、ちょっと特別な存在になったような気がした。天王寺動物園のキリンが亡くなったときには、その後そのキリンをどうするのか、電話で確かめていた。標本にするので、肉を削いで、その肉は敷地内に埋めるのだそうだ。2 か月に一度くらい、見に行っているという。姫路に木下大サーカスが来たとき、つてで直接会うことができたそうだ。2 時間、キリンのところに居たら、飼育員の人に凄く好きなんですね、と言われたという。

夜の動物園という企画でじっとキリンだけを見ていたという佐々木さんが、頭に浮かんで、まるでおとぎ話のようだなぁと目をつぶった。

知らない人とのエピソード

大晦日の神社。神戸では毎年地元の酒蔵の御ふるまいがあるそうだ。そこでのエピソードをよく話してくれた。ある年は、そこでたまたま知り合った人とそのまま一緒に東灘署の前で飲んでいた。そしたらその人が酔っぱらってしまい、騒ぐので警察が出てきた。酔い潰れていたので保護をお願いすると、自分も一緒に留置場に連れて行かれ、結局一晩を東灘署で過ごす羽目になってしまった。散々だった、という話だった。

そういうふうに、偶然出会った人とのエピソードには事欠かなかった。何でそんなに初めて会う人と絡めるのか、尊敬しながら話を聞いていた。

あるとき、佐々木さんの車の近くで一人でスケボーしていた少年がいて、静かになったので帰ったのかと思って見たら倒れていた。こけて脳震盪になってたらしく、朦朧とした本人に携帯持ってるか聞いて、119 番通報し、救急搬送された。そ

の日のうちに親と一緒にお礼を言いに来て、翌日に本人が菓子折りを持ってきた。

その後しばらくして、近くで粗ゴミ集めをしてたら朝「おっちゃん」と声をかけられ、ふりかえるとその子だった。高校 3 年だったその子が、今は神大に行っているとのことだった。

いろんな新しい食べ物、新しい店、スポットの情報を仕入れては教えてくれた。B - 1 グランプリ、塩焼そば、〇〇ロール、神戸コレクション。へえぇと思う知識もいっぱい。ラジオで聞いたら自分で行ってみて確かめる佐々木さんだった。旅も好きなんだろうな、と思った。

＊　＊　＊　＊

本当は、佐々木さん自身に話をしてもらい、それをまとめて文章にする予定だった。

佐々木さんの話がおもしろいという話をすると、自分でも分からんけど、よくしゃべるってことは寂しがりなんかもしれん、と話していた。自分で日記とかに書いたりはしないそうだが、もしうちらの報告書でそういうエピソードを紹介できるときがあったらしてもいいか、と聞くと、うん、と言っていた。

ここに書ききれていない佐々木さんが私たちにしてくれた面白い話がまだいっぱいあって、それを残したかった。まさかこんなに急に会えなくなるなんて、思ってなかったものなぁ。

佐々木さんは海で亡くなっていたそうだ。夜回り後の週明け、警察から連絡がきた。私たちが行ったときにはもう、警察が車の中を確認しに来た後で、だからドアが開けっぱなしだったのだろう。佐々木さんには近くに住む家族がいた。その家族に連絡が行き、それ以降の情報は、こちらには来ず、葬儀がされたかどうかも分からなかった。昨年書いた報告書の原稿（「家族であるものとそうでないもの」）を思い出した。

佐々木さんの車は、しばらくそのまま置いてあったけど、あるときみなと総局が撤去した。それまでに、家族が中の荷物をどうかしたかということは分からない。家主のいなくなった車は、次第に荷れ、そのまま撤去された。

佐々木さんは、どんなことを考えて生きていたんかなぁ。もっと聞きたかった。とても、寂しい。

（なべたに　よしこ）

佐々木さんカー。窓からは中が見えないようにしてあった。小柄な佐々木さんだったけど、足を伸ばして寝られただろうか。

私、リストラされまして（前編）

作画:〇（マル）

9
先ぱい
会社都合の退職ですし
突然の解雇で
雇用保険も
すぐに必要に
なりますから
サインするか考えます
10
人事の人
それにサインしないと
冬のボーナス
知らんからなー
では、次のところで
頑張って下さい
お疲れ様です
11
人事の人は
退職届の用紙を置いて
帰られました・・・
解雇されたのは１２月でした
冬のボーナスも１２月でした
営業所移転に伴なっての解雇でした
12
冬のボーナス
知らんからな発言
のことです
自宅待に働いていても
解雇されたり
脅迫されることって
あるんですね・・・
13
これから
どうしましょう・・・
そうですね
まずは
雇用保険を
ちゃんともらえる
ようにしないとね
14
先ぱい
私も詳しく分からないけど
自己都合の退職と
会社都合の退職では
雇用保険の支給日とか
色々と違ってくるはずやで
15
そうなんですか？
でも
自己都合の退職に
サインしないと
冬のボーナスが
もらえませんよ
16
おええーっ
サインしても
冬のボーナスが
貰える保障なんでないよ

17
っていうか
営業所移転の為に
退職を強要するのなら
移転が決まった時点で
説明をちゃんとしてよ
って話やんか
18
営業所移転は
年度末に話が出ていて
9月には
引っ越し先が確定していました
ですが
退職を強要されたのは
11月半ばでした
19
そうですね
前回の引っ越しでは
解雇とかなかったから
今回の引っ越しは
驚きの連続ですね
20
ちなみに
引っ越しの日から
有給休暇に入り
12月31日で退職をする予定に
なっていました
21
就活せなあかんから
定時で帰れるように
仕事に戻るわ
22
会社都合で
無職になるのに
働かなきゃいけない
なんて・・・
23
くそー
有給全部
使ってやるー
24
今日は
早退するのは
勿体ない時間やから
頑張ろう

つづく

野宿もゆるされない時代

野々村　耀

若いころ、小さなお話を作ってみたいと思ったことがあります。そういう才能がなかったので、実際には書かなかったのですが、その一つは「不幸な人のいない村」というものでした。

その村の名前は、ひどく魅力的に見えました。よその村には、いろいろなことで苦しんでいる人がたくさんいたからです。「不幸なひとのいない村には、飢えた人も病人もいない、という話が広がりました。・・・・しかし、その村の実態は、「不幸だと判定された人」は消されてしまう、というものでした。村から追放されたのか、どこかに閉じ込められたのか、殺されてしまったのか誰も知りません。少なくとも誰にも見えなくなってしまったのです。時々、どんどんきれいになっていく都会を見ながら、「不幸な人のいない村」のことを考えてしまいます。

◇　◇　◇　◇

神戸市では、2014 年の 10 月 1 日から「資源ごみ持ち去り禁止条例」が施行されています。何年か前から、あちこちの都市で同じような条例が制定されてきました。いろいろな理由がつけられています。自治体にとって、ペットボトルやアルミ缶などはいくらかの収入源になるから、横取りされたくないということもあるでしょうし、何らかの利権が絡んでいるのかもしれません。

以前は、「ごみ」は誰のものでもないから、持ち去っても盗みにはなりませんでした。しかし神戸市は、ごみは、神戸市が指定した袋に入れなければ回収しないことにしました。そのうえで、神戸市の袋に入ったものは神戸市の所有物であるから、持ち去ってはいけないという条例を作りました。違反すれば 20 万円の罰金を科されるという条例ですが、このことについては、「一年を振り返って」に書きました。これは、アルミ缶などを集めて（それを売って）暮らしている人にとっては、死活問題です。というか、野宿することを不可能に追いやる制度だと言えます。

去年も書いたのですが、「野宿している人の数は減っている」という現状をどう考えればいいのか、うまくいえないが、「良かった」といって済まされない問題をはらんでいると思えます。野宿がいいというわけではないのですが、タイトルのようなことを考えてしまいます。それは、驚くほどに野宿できる場所が無くなってきたということとも関係します。

誰かがいなくなると、その場所を立ち入り禁止とし、金網で囲って閉鎖する。公園などを何もないのっぺらぼうな空間にして、身を隠すことのできる物陰をなくす。（不審者対策、テロ対策などというが、不満を持った人間が増えることを予想しているのでしょう。また、公園の管理・運営を民間企業にまかせ、企業の都合で住めなくするとい

うようなことが進んでいます。) 公園やバス停のベンチは横になれないように奇妙な仕切りがつけられているし、歩道橋の階段の下の雨宿りできる空間は入れないように金網で囲われている。ドイツなどで、一面に槍の穂先のような尖った金具が植えられたベンチがあって、コインを入れると槍が下がって座れるようになるそうです。金のないものは座れないのはあまりにひどいので、抗議のために壊す人たちがいて、その仕掛けは廃止になったようです。実はいわゆる先進国は共通にこのようなことをしているようなのです。

コインを入れると槍状の金属が下がるベンチ

◇　◇　◇　◇

私たちは夜回り準備会と名乗っています。いつになったら夜回りをするのだとよく聞かれるのですが、もう 18 年も夜回りはしています。なぜ準備会という紛らわしい名前なのかというと、あるとき「夜回りの会」だから夜以外(昼間のこと＝福祉事務所に同行するとか、病院訪問など)はしないほうがいいという意見があり、何をする会なのか、それを名前にどう表せばいいのか、決着がつかなかったので、暫定的という意味で「準備会」と言ってきました。

基本的な考え方は「野宿したくない人が野宿しなくてすむように。野宿している人の人権が損なわれないように。」というものでした。野宿したくない人は、ちゃんとした住まいで暮らせるべきです。しかし、野宿することを否定しているわけではありません。このことは機会があれば書きたいと思いますが、今は書ききれません。

9 年前のことですが、私たちは連続講演会をやったことがあります。(「ホームレスをめぐる 4 つの話」というテープから起こしたパンフレットになっています。) その中の大阪の長居公園テント村の中桐さんのお話の中に興味深い点がありました。公園にテントを張ることによって、問題を可視化する＝見えるようにするというのです。野宿している人はいるのに、見えない。無視される。テントを建てることで、ここに問題があるということを見えるようにするというのです。問題があっても、問題として扱われなければ、ないことになってしまうことを突いていると思いました。

◇　◇　◇　◇

東京・日比谷公園に「年越し派遣村」がたてられたのは 2008 年末でした。大きく報道され、注目を集めました。可視化されれば、社会問題になり、対策が必要になります。逆に言えば見えなくすれば、放置できる。

今は、長いあいだの労働運動や、様々な社会運動によって獲得されてきた貧困を防ぐための規制が、破壊されようとする時代です。安倍首相自らドリルになって岩盤規制を壊すと言っています。規制は既得権益を守るものだと言いますが、なぜ規制が必要であったかを学ばなければなりません。

子供でも長時間の労働を強いられたり、ロンドンでは煙突掃除に体の小さい子供が使われて、煙突から出られなくなって焼け死んだりしました。女工哀史と言われるように、繊維工場で働く女性が埃を吸って結核になったり、貧しくて売り飛ばされたり、様々な悲惨な現実が有り、少しでもましな暮らしができるために、労働者を守る規制が

生まれたのです。規制をなくせというのは、そういう規制のなかった状態にしようということだと思われます。

こうしたことは、欧米では普通だ、だれでも転職を重ねてキャリアアップするのだという人がいます。しかし、実際は、アメリカのデトロイトで三代続いてこの会社で働いてきた、今何故解雇されるのかと訴える人がいます。また、イギリスでも同じ仕事を長年続けるのは珍しくありませんでした。変わったのはサッチャーやレーガンの新自由主義政策からで、日本では中曽根首相の頃からです。そして小泉首相時代に露骨になりました。

麻生副総理が、アベノミクスになって上手くいかない経営者は運が悪かったか能力がないからだ、と言いましたが、能力があれば、うまくいくのだと言われると、自分がしんどいのは、自分に力がないからだ、自分が悪いのだ、自己責任なのだと思い込まされているのではないでしょうか？強者だけが生き残れるような、強者の子供だけが強者になれるような仕組みはおかしい。そう考える人はまだ少ないかもしれないが、そのことで困る人は次第に増えていきます。

◇　◇　◇　◇

非正規雇用の若者の 80%は親の家に住んでいるそうです。親がいなくなれば、住むところにも困る事になるでしょう。だんだんに不満が充満してきます。それを押さえ込むために監視社会化が強められています。様々なカードや携帯端末でいつどこにいて、何をしていたか、いるか把握できるようになっています。大阪駅では監視カメラの映像をコンピュータで分析して、体の動きで誰だか識別できるような実験が計画され、抗議を受けていくらか変更されるようですが、いまや私たちは絶えず監視されているのだと思います。

◇　◇　◇　◇

80 年代半ばから、横浜では毎年野宿する人が増え続けました。その頃こう書いたことがあります。「昨年 8 月 1 日の朝日新聞に『ロンドン　ホームレス 13 万 3 千人』という記事がありました。救世軍がロンドンにホームレスが 13 万人以上いるという報告書を出した。その報告によると、街頭で寝ていたのは 753 人。持家・借家に関係なく、帰るべき家がないために、ホステルなどに泊まっている人が 4 万 3 千人。他人や公共の家屋に不法に住みついている人が 3 万人いた。今回の調査に漏れた人を入れると実際は 13 万 3000 人と推定している」というものです。同時にアメリカでは NY に 8 万人、全米では 300 万人いると聞いたことがあります。サッチャーや、レーガンの新自由主義的な改革の結果でした。日本も中曽根首相の政策で同じ道を進み、野宿する人が増えていました。このことから僕は、日本も英米にならって新自由主義的な道をたどれば、似通ったことになると思うようになりました。そして事実そうなりました。

そうしたことの一つが「ゲイテッド・コミュニティー」です。裕福な人が貧しい人たちと同じところに住むのを嫌って、塀などで囲いゲート（検問所）を設け、出入りには身分証明書を見せなければ出入りできないような住宅地のことです。1980 年代から欧米で始まり、だんだん増えてきました。日本では警備員の許しなしでは入れないマンションのような形が多いようです。

ここ 2・3 年の新しい動きとして気になるのが、そのようなコミュニティが独立をし始めたというニュースです。アメリカでのことですが、そういういうお金持ちのコミュニティも、従来はどこかの自治体（市や町）の中にあり、自治体に税金を納めている。自分たちが納めた税金が自分たちに還元されず、貧しい人たちのために使われているのは面白くない。だから、独立して自分たちだけの自治体を作ろう。そうすれば税金は自分たちだけのために使えるというのです。そういうことが進行中のようです。後に残るのは貧しい人ばかりの自治体になることでしょう。

2014 年の 11 月 6 日のクリスチャントゥデイという新聞が「フロリダのマイアミに近い町で 90 歳の男性と 2 人の牧師が、市の条例に反して炊き出しをしたという理由で逮捕された」という記事を載せました。以前は海岸で炊き出ししてはいけないといわれて裁判に訴え、最高裁で炊き出しはできるようになった、しかし、市は住宅から 152 メートル以上離れていないところはダメという条例を作り、それによって逮捕されたとのこと。

日本でも、東京都の渋谷区は、越年の炊き出しに公園を使うことを禁止したそうです。

野宿という見える形が押さえ込まれると、もっと深刻なことが起こるだろうと思います。私たちは少なくなっても野宿する人がいる限り、夜回りを続けますが、野宿することもできない状態に対しても、きちんと目を向けたいと思います。

（ののむら　よう）

私、リストラされまして（中編）

33
営業所移転のために
退職を強要される
ということは
事業縮小かしら？
PC
34
あっ！
移転先に求人でてる！
事業拡大してる？
応募しようかな？
っていうか
採用されるなら
退職を強要されてないか・
ハハハ・・・
35
うぅ
一っ
36
今回は、退職を強要されたのは
独身のアルバイトの女性だけでした
以前から、アルバイトの女の子は
結婚や妊娠をしたら、退職になったので
自分は独身だから大丈夫だと
安心していました
37
とりあえず
歯を磨こう
再就職が決まるまでは
歯医者さんの定期検診は
節約しよう
でも
退職までにもう一度
歯の定期検診に行こう
38
美容院にも行こう
就活するから
黒髪に戻さないとなぁ・・・
スーツはリクルートスーツで
いいかな・・・
就活ってお金かかるなー
39
でもでも
黒髪にしたら
友達に就活のことも
気づかれるかも・・・
いや
再就職までは
遊ぶ金残ないから、
大丈夫か・・・
40
黒髪にしたけど
友達に就活を気づかれることは
ありませんでした
無駄な心配でした
私の場合は・・・ですけどね

41 後日・・・
お疲れ様です
休暇届の判子を
お願いします
所長
どれどれ〜？
42
はい
12月6日まで
しっかり引き継ぎを
してくれないと
新しく来る子が困るから
駄目だよ〜
43
はい
所長
最後まで
頑張ってね
44
新しく雇った子が
業務に困るのは
分かるけど
私は
無職にされて
生活に困るのも
分かってほしい
45
うるうる
仕事中なのに
泣きそう・・・
46
ふるふる
若ければ
所長とか
心配してくれそう
47
今泣いたら
「行き遅れ、
何、泣いてんねん。
歯を食いしばれ。」
とか言われそう！
ひいいいいい！！！！
48
泣くもんか
っていうか
新しく人を雇う前に
解雇の説明を
ちゃんとしてよ
就職が見つかりにくい
ご時世に、ひどい

つづく

だれのための都市？

～フィリピン・マニラで考える～

藤 原 尚 樹

2014 年 10 月 2 日の深夜 1 時ごろ、フィリピン・マニラのニノイ・アキノ国際空港に着いた。少し肌寒かった関西から気温 30 度の真夏のフィリピンに来た。空港ゲート近辺では人びとの賑やかな声が飛び交っていた。深夜 1 時とはいえ、タクシーへと誘導する人や外国人観光客を待つ女性、乗り継ぎの便を待つ人びとで空港はごった返していた。

私にとってマニラでの滞在は今回で 5 回目だ。これまでとは違い、来年の 9 月までの長期滞在となる。さすがに 5 回目とあって、食文化や「フィリピンタイム」といわれるのんびりとした人びとの生活に戸惑うことなく過ごしている。これまでは知り合いが保有する自家用車に乗せてもらいマニラ首都圏や郊外へスタディーツアーに出かけていたが、今はトライシクル（バイク）やジプニー（乗合バス）、バス、電車などの公共交通機関を乗り継ぎ、マニラをせわしく動き回っている。国民の多くは自家用車を持っておらず、大多数の人はこれらの公共交通機関を利用する。朝の通勤、通学ラッシュで込み合うジプニーやバスにもまれ、夕暮れには家路を急ぐ人びとの姿を見ながら日常生活のなかに溶け込んでいくことがなによりも楽しい。また人びとのお金に対する感覚もおもしろい。たとえば、ジプニーは初乗りが 7．5 ペソで高くても 15 ペソ未満で終着所までたどり着ける。以前、わたしの隣にいた男性が 100 ペソの紙幣で支払おうと隣の乗客に手渡し（ジプニーでの支払いはお金を人から人への手渡しで運転手まで届ける）、運転手の手まで届くと無言のまま 100 ペソが返金された。釣りがないという意味だ。男性は悪びれることなく、無賃のまま目的地で降りていった。運転手は咎めることなく、次の目的地に向けてジプニーを走らせた。わたしも店で買い物をしたとき、釣りがないとよく言われる。その後は決まって店主が近所の店に両替を求めに行く。一日の商売はある程度の釣銭が準備された状態で始まるのではなく、営業しながら釣銭を確保していくのがフィリピンでは当たり前なのだろう。

トライシクル

ジプニー

その反面、日常生活でたいへんなことにも直面する。特に公共交通機関の人の多さである。UV EXPRESS という乗用車を用いた急行車があるが、日本では車の真ん中は通常 3 人乗りのはずがフィリピンは 4 人である。当初、4 人目の人はどうやって乗ればいいのかわからなかった。車のドアを開けるとスペースを空けてくれるが、10 センチほどである。乗り方がわからないわたしが 4 人目のときはいつも身体が挟まりドアが閉まらない。道路も混みあっていることもあって運転手が「早く閉めろ」と急かしてくる。大人の男 4 人であれば、わたしの身体はぎゅうぎゅうに挟まれいつも宙に浮く。今は空気イスでつま先だけを床につけながら目的地まで乗ることにも慣れた。けれど目的地で降りると足が震える。そもそも乗り方などないのかもしれない。とりあえず身体を押し込めばなんとか乗れる。

こうした生活を始めてまだ 2 か月間の滞在であるが、この感想文ではマニラ首都圏に暮らす人びとの居住について書きたい。

◇　◇　◇　◇

フィリピンは今年、人口が一億人を突破した。人口成長が著しく、どの街にいても子どもたちの賑やかな声が響く。とくにマニラ首都圏は地方から職を求めて都市に移住してくる人や首都圏の人口成長もあいまって、その数は 1100 万人を超える。しかし経済成長の過程で富を手にした人びとの生活スタイルに合わせるかたちで近代的な都市景観が立ち並ぶ一方で、路上で横になる家族や子どもたちもいる。

身近なところにもこうした矛盾を感じる場所がある。わたしが通うフィリピン大学の敷地内には「不法居住」の住宅が軒を連ねる場所がある。友人に尋ねると「長い間、かれらはここで暮らしている。多くの人はフィリピン大学で仕事をしているよ」という。校内を循環するジプニーやサリサリストア（小売雑貨店）、路上販売のアイスクリーム、清掃など校内のサービス労働をここで暮らす人びとが担っている。学生が捨てたゴミを子どもたちがごみ袋を引きずりながらかき集めていく。マニラの路上でもこうした光景をよく目にする。富裕層にとって快適な都市生活はこうした人びとの労働に依存している。

サリサリストア

しかしいま、都市貧困層の生活は大きく変わろうとしている。都市貧困層の人びとはマニラ首都圏で暮らすのではなく、郊外で暮らし始めている。郊外の住居からマニラ首都圏での仕事へ通う日常が始まりつつある。政府は多くの貧困層を郊外の社会住宅へと再定住するように促しているからだ。

フィリピン政府は人口が膨大な首都圏から都市貧困層を郊外へと移す住宅政策に取り組んでいる。マニラ首都圏の北側に位置するブラカン州では再定住地が形成され、多くの住宅が軒を連ねる。

マニラ首都圏の北部に位置するマラボン市、ナボタス市、マニラ市、ケソン市、カロオーカン市などから、さらに離れたブラカン州のパンディ、ムソン、ガヤガヤ、ボカウェイ、バラグタスの 5 つの再定住地に貧困層が次々と移り住んでいる。再定住地に移った人によると、ガヤガヤだけでその数は約 1 万世帯あるという。わたしは知り合い

の紹介を受けながらパンディ、ムソン、ガヤガヤでホームステイをさせていただいた。そこでは多くの人びとが新たな生活を始めていた。

マニラ周辺　地図

◇　◇　◇　◇

「マニラの空気は排気ガスで汚れているけど、ここは田舎だから新鮮だよ」。

ジョーエル（仮名）さんはタバコをふかしながらガヤガヤで話を聞かせてくれた。妻のメイさん（仮名）の仕事が土曜日まであり、着いたのは土曜日の午後 7 時ごろだった。ジョーエルさんは月曜日から金曜日まで住宅建設の労働者としてマラボン市で働き、妻のメイさんは NGO が運営する幼稚園でパイナップルジュースやゆで卵、チョコレート菓子を販売し、大学生の息子マイケル（仮名）と一緒に、土曜日、日曜日だけブラカン州のガヤガヤに帰ってくる。月曜日から金曜日のあいだは家族と友人たちとともにマラボン市で 8 畳一間の住居を借り、約 10 人で共同生活を送る。次男のロッキー（仮名）はガヤガヤコミュニティの高校に通うため、平日は近所に住む親せきの助けを借りながら一人で暮らす。

再定住地　ブラカン州　ガヤガヤ

ジョーエルさん一家はマラボン市のリバーサイドコミュニティで生活を営んでいた。マニラ首都圏のコミュニティで暮らす人びとの紐帯はとても強い。マラボン市は特にビサヤ地方出身者が多く、近隣の人が同じビサヤ出身であったり、親せきが同じ場所に暮らしていたりするなど、ほとんどの人がお互いに顔見知りである。

しかし、こうしたリバーサイドコミュニティでの生活は台風や大雨が降り注ぐたびに洪水で床上浸水や避難を余儀なくされる。5 年前、わたしがリバーサイドコミュニティでホームステイをさせていただいたときは一晩中降り注いだ雨がトタン板の屋根を打ちつける音で眠れなかった。翌朝、膝まで水に浸かりながら一階に住む住人は朝食を食べていた。

マラボン市　リバーサイドコミュニティ

行政は人びとの生活排水によって河川が汚水することを理由に、人びとの立ち退きと移住政策を進めた。そしてその新たな生活の場所がマニラ首都圏ではなくブラカン州だった[1]。

「明日の朝は午前3時に起きるからね」。日曜日の夜、私はガヤガヤでジョーエルさんの親戚たちと酒を酌み交わし、音楽をかけながら一緒に踊っていた。メイさんは「大丈夫かい」と心配した様子で明日の起床時間を告げてくれた。とても早いね、と聞くと「そうね、だから早く寝なきゃね」と微笑んだ。親戚たちと午後2時から飲み始めた宴は午後8時まで続いた。終始賑やかな宴だった。お互いに会えるのは土日だけだ。それでも親戚たちとともに再定住地に移れたことは「幸せだよ」とジョーエルさんは何度もつぶやいた。

翌朝、まだ外が静寂に包まれた暗闇の中、目を覚ました。時計を見ると午前3時。午前4時にトライシクルが家の前に来るという。きのう一緒に飲んでいた親戚の2人もトライシクルに乗車した。これから仕事だという。午前4時に親戚のトライシクルに乗車し、4時10分に近隣のバス乗り場に着いた。

そして4時23分にバスは出発し、4時59分にマニラ首都圏のバス停に到着。5時5分にジプニーに乗り換え、近隣のトライシクル乗り場まで向かう。5時10分に着くと、朝食のパンを購入後、トライシクルに乗車しシェアハウスに着いたのは5時24分だった。1時間24分かけてまだ日が昇らないマニラ首都圏のマラボン市に戻ってきた。

ガヤガヤに向かうときは渋滞もあって約2時間かかった。政府が提示した再定住地の遠さに改めて驚かされた。トライシクルやジプニー、バスを乗り継がなければならず、交通費も片道一人あたり79．5ペソ（日本円で約160円）である。ガヤガヤコミュニティの家賃は3年ごとに上がるものの、現在は月200ペソ（400円）である。しかし、家族全員分の往復の交通費やシェアハウスの賃貸支払いを含めればさらに費用はかかる。そしてこうした生活を営むには仕事があることが前提となる。しかし、マニラ首都圏は不安定雇用が多く、決して安定したものではない。

◇　◇　◇　◇

最後に、ブラカン州の再定住地の中でマニラ首都圏から最も遠いパンディについて書きたい。わたしは12月6日に再定住地であるムソンに暮らす友人のポール（仮名）の家で一泊させてもらった後、翌朝、ポールの弟ミゲル（仮名）が妻と子どもと暮らしているというパンディまで一緒に行かせてもらった。ムソンはガヤガヤからジプニーで10分ほどのところにあるため、距離もガヤガヤとさほど変わらない。しかし、パンディはそこからさらにジプニーを乗り継ぎマニラ首都圏とは正反対に北上し約1時間かかった。

[1] ある友人は、政府はマラボン市における再定住地も準備したが家族で生活をするにはあまりにも狭かったため、ブラカン州に行くことを選んだという。

再定住地　ブラカン州　パンディ

パンディに着くと、友人の弟ミゲルが子どもと一緒にジプニー乗り場まで迎えに来てくれた。わたしは彼とバスケットボールをしたことがあり、かれもわたしを覚えていてくれた。以前会ったときよりも体格がしっかりしていた。ミゲルはいま、パンディの近郊で建設労働者として働いている。

山から湧き出る水　ブラカン州　パンディ

ミゲルが「水を汲みにいく」というのでついていった。タンク 2 つを抱えて山から湧いてくる水を汲みに行くという。

家にはトイレがあり、台所がある。しかし、水が出ないという。[2]つまり、ミネラルウォーターは購入しなければならないが、洗濯やトイレ、風呂に使用する水は、毎回汲みに行かなければならない。行政が配水車で一タンクあたり 3 ペソ（日本で約 6 円）の水を販売しているが、ミゲルが風呂で使用したさい、全身にかゆみが出たのでそれ以来使用をやめているという。洗濯やトイレは配水車の水を購入できても、風呂の水は山から湧いてくる水を使用している。

そこでは、洗濯物を洗ったり、順番待ちをしたり、その近辺で花を摘んだりしている子どもたちがいた。話を聞くと、マニラ市やナボタス市から来たという。ナボタス市やマラボン市はマニラ首都圏の中でもブラカン州に近い北部に位置する。しかし、マニラ市は市の中心部に位置し、ブラカン州からはさらに離れている。彼らはマニラ市での生活をすべて断って、ここで新たな生活を始めることを選んだのだろうか。もし仕事でマニラ市まで通うとすればどれぐらいの時間と交通費がかかるのだろうか。まだ幼い子どもたちだったので、深く聞くことはできなかった。

◇　◇　◇　◇

この再定住地計画はいくつもの矛盾を抱えていると思う。

ムソンの家に宿泊をさせてくれ、パンディに住む弟のミゲルを紹介してくれたポールはこの再定住計画について 2 つの疑問があるという。ひとつは、マニラ首都圏からの距離である。人びとはマニラ首都圏に生活の基盤を置いていた。しかし、再定住地の場所はどれも毎日職場に通うことがで

[2] ムソンで暮らすポールの家に宿泊したときもリヤカーにタンクを並べて近所にある水道水（パンディと同じく一タンクあたり 3 ペソ）を汲みに行った。わたしが滞在したガヤガヤ、ムソン、パンディの中で水道水が出たのはガヤガヤだけだった。行政は再定住を急速に進めたが、生活様式がまだ整っていない段階で人びとは移住を余儀なくされている。

きない遠さであり、交通費もかかる。そしてもうひとつは「どこの再定住地に住むか選択肢を与えられなかった」ことである。確かに、ポール家を含めわたしがホームステイをさせてもらった家族は多くの親戚が近隣で暮らしていた。しかし、同じマラボン市のコミュニティで暮らしていた人たちはそれぞれ異なるコミュニティに分散した。親戚以外の人たちとはそう簡単に会えなくなってしまった。ジョーエルさんの家でホームステイをしたときも、向かい側の家に住んでいる人はどこから来たのかと尋ねても「たぶんカロオーカン市じゃないか」と言っていた。もう暮らし始めて一年が経つが、土日しか戻らないため親戚以外との付き合いは乏しかった。そして以前のように近隣に住む人たちが全員顔見知りでなんでも協力し合える関係というわけでもなさそうだった。

◇　◇　◇　◇

パンディからの帰り道。ミゲル家の近隣に住み、滞在中に仲良くなった女性の孫が仕事でマニラに戻るため、マニラまで案内してくれた。ジプニーから高速を走るジプニーに乗り換えマニラまで約2 時間かかった。渋滞することなくマニラに着くことができた。案内してくれた孫の男性はナボタス市にあるもう一つの家に住みながら、アルバン（富裕層の住宅建設が著しい場所）で建設労働者として働いているという。土日だけ家族が暮らすパンディに戻り、そして日曜日の夕方には再びナボタス市に帰ってくる。

再定住地で建設労働者として働く人たちに何人も出会った。ジョーエルさんもミゲルも、そして案内してくれた女性の孫もそうだった。都市の土地をめぐって、「不法」に暮らす人たちを郊外の再定住地に移動するように促しながら、立ち退いた場所に不動産投資を呼び込む。そしてそこに住宅や商業施設を建設する労働力は再定住地に暮らす人たちが担っていく。

わたしが住むケソン市のショッピングモールに隣接するスラムはいま、立ち退きの対象となっている。そこに新たなショッピングモールを増築するためだろう。あまりにもやり方が露骨でスラムの半分の住居は跡形もなく取り壊され更地となりすでにダンプカーが入っている。もう半分はフェンスで囲まれ、警備員が周辺に配置されている。電車に乗るといつもその場所を通るので目にする。友人や知人もそれについて話してくれたことがあり、マニラの中でも特に立ち退きが著しい場所だという。

しかし、ここに限らずマニラ全体でこうした現状がある。なぜなら再定住地に移ってきた人たちはすべて行政からの警告を受けて立ち退かされその地に来たからだ。高級住宅地やショッピングモールを建設することで得られた利潤はさらなる利潤を求めて次の建設に向かう。その繰り返しが人びとを周辺へと押しやっていく。

◇　◇　◇　◇

マニラを歩きながら、神戸を思い出すことがある。同じような光景に出会うからだ。超高層マンションが林立するところでは街の安全と生活の快適さを謳い、貧困を取り除き、選別された人たちだけが暮らす場所として特別視される。こうして選別されていく都市は人びとのための都市ではない。利潤のための都市である。都市を創ってきた人たち、サービス労働を担う人たち、そうした人たちの変わりゆく日常生活をマニラで考え続けたい。

（ふじわら　なおき）

私、リストラされまして（後編）

57　クリスマスパーティー・・・

お疲れ様です
今年の
クリスマスパーティーは
神戸の職員の表彰が
あります
出来るだけ参加
してください

58

59

60　後日・・・

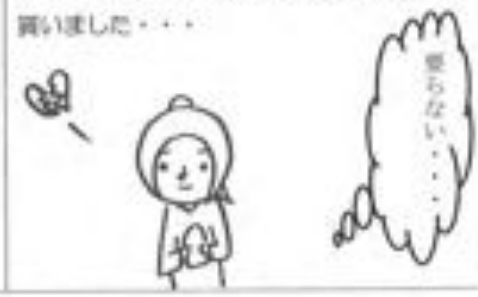
61

62

12月6日から
12月31日の退職まで
有給休暇でした
クリスマスパーティーのお菓子は
12月の下旬に神戸に届いたので
有給休暇中で暇でしたが
解雇された会社に行くのは
面倒臭くて、気まずかったです

63　お菓子を受け取って・・・

64　お菓子の他に
解雇された会社の名前が入った置き時計を
買いました・・・



65 ハローワークに行きました
よろしくお願いします
6番の番号札でお待ちの方どうぞー
66
現在の仕事を今年の12月で退職することになりまして出来る限り今と同じ条件で再就職を希望しています
67
同じような条件ですと求人はありますが採用人数は1人で○さんは98番目の応募になります他も同じような感じですねー
ハローワークさん
68
おええーっ
69
なので
事務職は諦めました・・・
70
ですが
再就職に1か月かかりました
実家暮らしでなければ
路頭に迷っていたかもしれません
家族に感謝しています
71 再就職が決まると、周りの人に、
リストラされたと言える
ようになりました・・・
実は事務の仕事リストラされてん
えええっ!
72
だから
"生活に困っている。"と
人に話すのはつらいことだと分かるけれど
"生活に困っている。"と
言ってほしいです

おわり

続いている問題

鍋谷　美子・金本　美子

報告書の編集作業も終盤、感想を集めていました。メンバーの金本さんが、以下の感想を送ってくれました。

＊　＊　＊

「越年の炊き出しに参加させていただきました。貧困問題について話したり、他の地域活動をされている人に話を聞いたり、とても良い時間を過ごすことが出来ました。野々村さん秘伝のカレーも美味しかったです。ありがとうございました。

さて、2014 年１月３日の炊き出しで、炊き出しのボランティアで指示出し？をしていた男性に、私はお尻を触られました。嫌でした。でも、怖いし、炊き出しの途中で、ボランティア同士で揉めて、他の人に迷惑をかけたくないので、黙っていました。すると、男性は離れてくれたので、返事せずに黙っている私を見て、私が嫌がっているのを分かってくれたのかな。と思いました。しかし、５分も経たないのに、またこちらに近づいて来たので、怖くて、夜回り準備会のＮ君の後ろに回って、「はい。」「分かりました。」「大丈夫ですから。」とＮ君を盾にする形で返事をしました。私に盾にされたＮ君は、オロオロしている私に気付いて、「触るのは、やめましょうよ。」と言いながら、男性と私の間に、いてくれました。そのあとは、触られたりせずに過ごすことが出来ました。助けてくれる人がいるから大丈夫。と気持ちを立て直しました。

数日経ってから、夜回り準備会で炊き出しでのセクハラの話をしたら、別の加害者で前にも炊き出しでのセクハラは起こっていて、前例の被害者はちゃんと相手に「やめて」と言ったとのことでしたので、“次回の炊き出しは、触られない様に人との距離を作って、それでも触られたなら、私も、「やめて」と言おう”と思いました。

2014 年 12 月 29 日の炊き出しも、その男性はいました。そして、腕と背中を撫でられて気持ち悪かったです。でも、やはり怖いし、今回はお尻を触られた訳じゃないし、「やめて」って言いにくいなぁって思っている間に、男性は離れて行きました。そして、助けてくれる人がいるから大丈夫。と気持ちを立て直しました。

怖いときは、「やめてください」って声が出ません。でも、言わないと伝わらなので、「やめてください」って言えるようになりたいです。そして、セクハラはあってはならない。という雰囲気を作っていけるように頑張ります。

最後に、助けてくれる人がいなければ、炊き出しには、もう行きたくない。となっていたと思います。いつも助けていただき、ありがとうございます。」

＊　＊　＊

これを読み、ショックを受けました。ショックの中身はいくつかあるけれど、1 年と少しの間、このことを言えずにいたメンバーの気持ち、つらい思いをさせてたのだという申し訳なさ、やっぱり、被害に遭ったとき言いにくい雰囲気があるままなのだ、という悔しさ等々でした。でも、せっかくこういう形で思いを出してくれたメンバーの気持ちに応えたいと、感想とは別枠で、このことを取り上げることにしました。

これまでも報告書の中で、ハラスメントの問題を何度か取り上げてきました。vol.5 の「野宿者支

援の中の「男・女」」で、初めて運動の現場で起こっていたセクシュアルハラスメントについて取り上げ、Vol.6 の「寄せ場交流会報告—神戸での取り組み—」で、その後の神戸の野宿者支援の現場でその問題についてどんな対応・取り組みがされたかを報告、vol.7 の「運動の中のハラスメント」で、これもグループ内で起こったモラルハラスメントと言われるような事態を取りあげました。そして、神戸の越年越冬実行委員会の中では、最初に問題提起した年に話し合いをし、「セーファー・スペース」と呼ばれる取り組みが始まりました。

ただ、ここ数年は、私自身は声をあげ続けないといけない状況に疲れ、あまり積極的にその問題を言っていくことができずにいました。セーファー・スペースをやる中でも、嫌なことを言われることもあったり、周囲の人はあまりこのことに積極的に取り組んでくれない・言ってくれない、という気持ちもあったのです。ただその中で、夜回りに来てくれ、何度も話す機会があるメンバー、とくに女性メンバーには少しずつ、嫌なことがあったら言ってほしいということを話すようにはしていました。

今回のことは、そんな中で起こっていて、セーファー・スペースの取り組み内容自体も見直さないといけないと感じています。金本さんにそのときの状況や、なんでこういう形で出そうと思ってくれたのか話を聞きました。まず、最初はやはり問題にしづらいと感じたこと、相手がボランティアで、仕切ったりしている人だったこと、そこで問題が起きると炊き出しに支障が出ると感じたということでした。それで、その後炊き出しでのセクハラ問題が話題に出たときに、「若い女性が配ったほうがおっちゃんが喜ぶ」と言われて嫌だった、ということ（それも何度か問題になっていたことでした）は話してくれたのですが、身体を触られたということはそこでは出ませんでした。今年はそうではないかも、と思い参加してみて、だけど今年も、やはり嫌だと感じ、感想文を書くときにこれまでの報告書を見直していたら、以前にも書かれていたんだと分かり、書こうと思ってくれたということでした。

今、越年の実行委員会にこのことを問題として出して話し合いを始めているところです。日常活動でいっぱいいっぱいで、問題が起こってから動くことになるのは、相変わらずな感じで、悔しさと情けなさがあります。でも、報告書に記録として残しておいたことに意味があったんだなということは感じました。それで、今回も最後の最後にこのことを記録に入れました。その後の展開は、また報告できればいいなと思います。

（なべたに　よしこ）

＊　＊　＊

私が鍋谷さんに感想を送ったあと、鍋谷さん自身がショックを受けてしまいましたが、書いてよかったと思います。

鍋谷さんが被害者だったときは助けてくれる人がいなくて、二次被害にもあい、苦痛の連続だったけど(今も解決していない)、私のときは助けてくれる人がいて、二次被害もなくて、何とかなるかなぁと思えたからです。

そして、助けてくれる人が現れたのは、鍋谷さんの声が夜回り準備会のメンバーに届いたおかげだとも思います。

最初にセクハラを受けたときは、犯人は魔がさしただけかなぁと思いましたが、二回連続で身体を触られて、私が狙われていることが分かり、不安ですが、助けてくれる人がいるので、炊き出しに行きたくないとは思いません。

次回は、夜回り準備会のメンバーの力を借りつつ、セクハラを止めさせます。

そして、女性が炊き出しに参加しやすい環境作りをしていきたいです。

（かねもと　みつこ）

一粒の価値

池田 桂子

私は　寒くて　貧しかった時に　もらった　一粒の
チョコレートが　どれほど　うれしかったか　よく覚えている。

真冬。
私は中学生の時に　通学バスの中から、
ガリガリに　やせた　おばあさんが
素肌に　ビニールで作った服だけを　まとっているのを　見たことがある。
足は　裸足に　ビニールを編んで作った」わらじのような　ものを　履いていた。
とても冷たい風の中　ゴミ箱を　のぞいていた。
おばあさんは　どうして　こうなって　しまったのだろう？

夜に出会う人々。
彼らはちゃんと　自分の人生を　自分で選択しているのがわかる。

イスを用意してくれる方。
猫や　ほかの動物たちと　お友達で、私たちが　もっていったパンを
全部動物にあげてしまう方。
いつも機嫌よく　いろんなことを　おしゃべりしてくれて、
8 月花火の夜に海で亡くなっていた方。
ラジオが好きで　野球と音楽が好きで
阪神タイガースの試合を　熱心に応援していた方。
10 年以上の公園での生活を終え、アパートで暮らし始めた方。

私たちが月 2 回　彼らに渡す　温かい　コーヒーは
とても価値のある物だと私は思う。
ほんとうは　私は　あまり役に立っていないと思う。
でも　たぶん　私がもらった　一粒のチョコレートと同じ。
その一粒分、彼らのことを考える時を下さい。

それぞれの感想

夜回りに参加して

池田　美代子

去年の 12 月から夜回りに参加させて貰っている池田です。まだまだ新米で、人の後ろに付いて歩いている状態です。

40 年前、田舎から出てきて初めて三ノ宮の地下街を歩いた時の事。通路にゴザを敷いて、頭を下げている女の人を見かけました。その時の衝撃を今でも忘れる事が出来ません。どうして良いのか分からず、立ちつくすだけの自分の姿も良く覚えています。

あれから長い年月が経ちました。こう言う状態を放置しているのはおかしいと、わざわざ行政職を選んだのに……

気には為りつつ仕事と子育ての両立に精一杯で、行動に移せ無かった自分を恥じると同時に、若くして行動に移しているボランティアの方々には、本当に頭が下がる思いです。

私にとっての夜回り

金本　美子

夜回り準備会の活動は、安否確認、野宿の方におにぎりやパンなどを渡して、世間話をして、困ったことがあれば夜回りのみんなで話し合うという、感じです。

活動は難しく感じませんが、仕事の事で困っているとか、対人関係で悩んでいるとか、つらいと思っていることを人に話すのは体力を使うし、話した相手がちゃんと話を聞いてくれるか分からないし、困っていても、自分一人で何とかしたいから話たくないこともあるから、夜回りで、野宿の方に、しんどい時にしんどいって言ってもらえるような関係を築くのは難しいことだなぁと思います。

関係を築く＝通い続ける訳ではないけど、続けてみようと思います。

そして、自分に出来ることが増えたらいいなぁと思います。

私に、貧困問題に関われる機会を与えてくださった夜回り準備会に感謝を申しあげます。

神戸の越冬・越年への思い

桐田　泰江

初めまして。私は神戸市内の病院で麻酔科医・ペインクリニック医をしています。数年前に阪急西宮北口駅の渡り廊下で BIG　ISSUE という路上生活者の販売する雑誌を購入したのがきっかけで、ホームレスの存在を身近に感じるようになりました。自分が医師として関わるとすればどんなことができるかという思いつきでホームページを検索していると、神戸の冬の家、越年・越冬プロジェクトと YWCA の夜廻り準備会にヒットしました。医師として日常業務も忙しく、土日夜間問わず業務に追われることもあり、自分自身の自由時間が少ない中で、限られた空き時間で彼らに関わる活動に参加できればという独りよがりな思い、また、定期的に参加するのは難しい状況で皆様にご迷惑をおかけするのは十分承知で、鍋谷さんに思い切ってコンタクトをとらせていただきました。私の参加を快諾して下さり大変感謝しております。

2014 年 12 月 29 日、神戸の東遊園地公園の医療相談で初めて参加させていただいた越年・越冬のボランティアですが、1995 年の震災後より始まったこの活動で数々の利用者の医療相談の履歴が事細かに記録されており、感嘆いたしました。おそらく、この活動が始まった当初は 1 日あたりの訪問者数も相当数にのぼったことでしょう。

私の滞在は 11 時～16 時までで、10 名の方の相談を受けました。薬の処方とカルテの記載が主だった内容ではありましたが、実際のクリニックや病院でお会いする患者さまとはまた異なる医療相談内容も多く、私の専門外の精神科領域疾患も多かったため、今後の自分の課題としましては、単なる診察と投薬だけではなくメンタルヘルスのためのコンサルテーションやサポート体制についての知識の向上、経験の蓄積が必要であると感じております。利用者はただ処方を受けに来所したのではなく、普段友人や職場の関係者には相談できないような悩みも抱えており、それを吐き出す場所が無いままやっとの思いでたどり着いたのだということ。まずその彼らの勇気を評価し、今後も継続して訪問できるような環境を整えることが重要だと感じました。社会集団から孤立した路上生活者が他人との関係が希薄になり、焦り・不安や恐怖が蓄積され、最悪、犯罪につながるようなケースも可能性はあると危惧しております。当日は実際に、ある訪問者よりそういった相談も受けましたのでぞっとしました。

一方、夜廻り準備会では 2014 年 12 月と 2015 年 1 月の計 2 回の参加にとどまっておりますが、現在の全体の訪問者数が少ないことと、ドライバーや車の積載人数制限などもあり、遠慮させていただいております。今後の私個人としての活動としましては、医療相談が必要な方がいらっしゃれば遠慮なく通報いただき、私の可能な範囲で訪問・診察をし、医療機関への受診が推奨されるかどうかを判断するような形で、非常に微力ではありますがこの活動に貢献して参りたいと思っております。メンバーの中には御高齢の方もいらっしゃいますし、若い女性が主体となっておりますので、どうか今後も事故が無いことを切実に願って止みません。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。多謝。

越年『神戸冬の家』初参加

立川　献

昨年報告書に向けての感想を書いてから、もう 1 年が経ってしまいました。

昨年１２月には、越年の炊き出しに初めて参加することができました。前回の越年の際には、参加する意欲だけは一人前ながら、当日深夜に急激に体調が悪化したためにあえなく不参加でした。そのため、わたしにとっては初めての越年イベントでした。

夜回りと越年に参加して、「夜回り」という活動が野宿者支援について重要な役割を担っているのだなと感じました。

私は、越年では、主に調理場で作られたカレーを皆様にお渡しするという役割でした。カレーを沢山お渡ししながら気づいたことがあります。それは、私の目を見て普通に挨拶をしてくれる方が、非常に少なかったということでした。

野宿者の方には野宿者の方のコミュニティがあると思います。ただ、人とコミュニケーションを取る機会は、非常に少ないのではないかと思います。私は、日常生活をしていく中で、疲れたり傷ついたりすることがあります。そんなときは友人に話を聞いてもらったり、どこかにそれを吐き出したりすることで、気持ちが落ち着くことがあります。信頼できる人とのコミュニケーションは、

精神安定の支えとなっています。

多くの野宿者にとっても、それは同じではないかと思います。その意味で、野宿者の方と丁寧に信頼関係を築き、定期的に訪問してお話をすることは、その相手（の特に精神面）に対する、重要な支援になっていると感じました。

私は、初めて夜回りに参加したとき、「直接懐中電灯の明かりを向けないこと」と事前にレクチャーされたことを、ハッキリと覚えています。自分が野宿生活をしているとしたら、いくら支援してくれる人が来たとしても、自分の顔を懐中電灯でパーっと照らされたら、威圧感を感じるし、不愉快だろうと思います。そういった細やかな配慮も、全て野宿者の方との信頼関係を築くための心配りです。

夜回り準備会には、最近新しい仲間が増えています。その中で、色々と細かい話し合いが行われています。しかし、仲間が新しくなっても、これまで築いてきた信頼関係が失われることがないように、注意を払って議論がされているように思います。

これからも、変えるべきところと変えるべきでないところを、見誤ることのないように、ゆっくり前進していくことでしょう。

最後の花火

鍋谷　美子

久しぶりに絵を描いた。佐々木さんにまつわる絵。写真がなく、記憶の中では佐々木さんの笑った顔は鮮明なのだけど、それを絵にするのはできなかった。かわりにきりんと佐々木さんを想像したり、車の中を思い出しながら描いた。

最後の夜回りの日、一緒に花火が見れていたらどうだったろうかと考えても、だからどうということはないなと思った。佐々木さんはもういないのだし、そのことはどうしようもない。佐々木さんが亡くなって少し後に、近くに住んでいたＴさんのところを訪ねた。Ｔ さんもショックを受けていた。寂しいなぁと話した。

車が撤去されてみると、人が一人暮らしていたことも、跡形もなくなってしまった。あんなに存在感をはなっていた佐々木さんだったのに。人間はいつか死ぬのだけど、何度それを経験しても、存在がなくなることに、慣れない。そして、自分の記憶の中に、その存在が強く残っていることを実感する。

野宿していると、それだけで存在を消されてしまうことがある。人の意識の上でも、物理的にも。今自分の中にあるたくさんの人の記憶・一緒にしてきた経験。それだけは、消されないようにしっかり持って、私が生きているうちに、表現していきたいと思う。

善意のつもりが・・・

野々村　耀

こんな息苦しさをなんとかしたいとおもうのです。そのために私たちはもう少しお互いを理解しあいたい。その一つに、自分の考えは間違っているかもしれないと思ってみることも大切ではないかと思います。例えば、暮らしに困っている人が居ると聞くと、「生活保護を受ければいい」と考えて、納得してしまいがちです。それはそれで、受け入れられる人にとってはひとつの解決ですが、中には自分にはそれは嫌だという人がいるかもしれません。

横浜・関内駅のそばで野宿していた女性が生活保護を受けることになり、簡易宿泊所に泊まって、

役所の人が居住確認のために来るのを待つことになりました。しかし役所の人が行くと彼女は部屋にいません。僕はあわてて探しました。その人は以前暮らしていた関内駅のそばにいました。「どうして？」と聞くと「体調が悪いから。元気になったら部屋に戻る」という返事でした。ショックでした。野宿より屋根の下のほうがいいと思い込んでいたのですが、その人にとっては、そうではなかったのです。

ある晩の夜回りで、ふだん会ったことのない高齢の女性に会いました。「どこから来はったの？」と聞くと、「小田原の老人ホームから逃げてきた」ということでした。年とったら、老人ホームに入れるといい、と思っていたので、この時も驚きました。この人にとっては、老人ホームは野宿よりつらい場所だったのです。

野宿している人がいるといえば、では「施設を作ればいい」というふうに思う人もいますが、何がいいか、何が良くないかは、当人でないとわからない場合があるようです。それだのに、これがいいに違いないと決めつけがちではないでしょうか？

スティーヴン・ピンペアという人の「民衆が語る貧困大国アメリカ　～不自由で不平等な福祉小国の歴史」という本の初めに面白いエピソードが書かれています。

或る婦人の慈善団体がスラムの子供たちに、ポットに植えた花を配ろうと計画します。きっと子供たちは喜ぶだろう、感謝するだろうと思って。ところがスラムに到着すると子供たちはお行儀よく受け取るのでなく、あっという間にそれぞれが数鉢ずつひったくって消えてしまった。婦人たちも仰天したが、子供達も日の当たらない狭い家に持ちかえることもできないから当惑し、取れるだけ取って売りに行ったというのです。

いいことをしたつもりの婦人たちと、されて当惑する子供たち。する側とされる側のギャップ、その陰にある　判断する側とされる側のずれ。力のある側はいつも相手を裁き（判断し）、弱い側はいつも裁かれる。

30年ほど前、障害者の作業所で働いていたとき、全市の作業所連絡会が、力を合わせて保養所をつくろうという話が持ち上がりました。海の家とか山の家を共同で作って、気兼ねなく障害者が憩える場所を作ろうと考えたのです。その時、市内でただ一つ、障害者自身が設立した作業所から、異議が上がりました。作るなら、山や海のような場所でなく繁華街に作りたい、「我々はいつも邪魔者扱いされ、人のいない場所に追いやられてきた。然し我々はみんなが集まるところにこそ行きたい。」というのです。

ショックでした。その他の作業所は親の会などが作ったものです。みんな、わが子のことを思っていたのです。でも、繁華街に作ろうという考えは誰からも出なかった。いくら考えても、当事者の希望とはすれ違っていたのです。自分の考えは違っているかもしれないと思い、真摯に耳を傾けないと、善意のつもりであるほど、危ういと思うのです。

夜回りとひとり旅

まりや

神戸 YWCA の夜回りに参加したのは、昨年の10 月。

その１ヶ月半後に、私は沖縄の石垣島にて１週間、ひとりテント旅をした。

ひとり旅の中で、人とのふれあいの嬉しさと有り難さ、困難さを痛感することに、そして初体験

の連続でありアテのない自由気ままな時間になった。

まず、石垣に着いて交通手段は、電車ではなくバスか徒歩。普段、大阪での移動手段は自転車、加えてテントセットを詰めたリュックは 10 キロくらいになっていた為、初日の移動は控えたかった。正直歩ける自信も無かったし、見当をつけていた公園への道のりが想像以上に長かった。そうなると困るのは、初日の寝床。飛行機に乗ってる間は、”どうにかなるやろ”と考えていた自分にその時あきれてしまった。だが、ひとり旅、どうなるかは自分次第。早速、市内までバスで行き、土産物屋でテントを張れそうなポイントを聞いた。すると、埋め立て地の八島人工島を紹介された。そして昼過ぎそこを目指し、着いてみたら驚き！猫アイランド(笑)もうダメだ。食料も何もかも食われてしまう。そこでエサをあげている人が居る為に、人には慣れているが、こんな所では易々と眠りにつく事は出来ない。ああ、どうしよう。

眠る場所ひとつにおいて、探すのには苦労すると知った。

YWCA の夜回りに参加したときも、辺鄙な所にテントを張っているものの人から隠れ、襲われにくいまたは自らに都合のよい場所が多かった事を思い出した。だが、それを見つけ出すのも結構な苦労があっただろうな、とも感じた。

その後、猫アイランドかと思いきや、静かな公園、駐車場、トイレのある広場を発見しいそいそをテントを張り、その日を過ごした。

テントの中は、快適ではあったものの風や駐車場でエイサーを練習している若者達の声、外からの音がすごく大きく聞こえ、眠れなかった。

次の日からもテント旅を続け、バス停の時刻表とにらめっこしていたら気のいいおじさんに声をかけられそのまま車で観光案内をしてくれたり、携帯の充電の為に宿を探していると知人が宿をやってると教えてくれるおばちゃんが居たり、私は人とのふれあいによってすごく充実した日々を送る事が出来た。

そして、離島の西表島に行った時の話。

石垣島のフェリー乗り場で、宿も取らずに離島に行くことはおすすめ出来ないと言われた。どういうことだろう…。

その理由は、西表島のキャンプ場の主人が教えてくれた。

離島の小浜島、鳩間島、西表島、与那国島、新城島、黒島、竹富島、波照間島、以前まではすべての島でテントを張ることが出来た。でも今は西表しか張ることは出来ない。それは、テント旅で来た人がテントの中で自殺、島での強盗、殺人。それぞれの島で、ひとり旅で来た者が行った前歴がある為にもう張ることは出来なくなった、と。ひとり旅自体、国内では最近受け入れてくれないところまたは理由をきいてくるところも増えてきていると聞く。

今日の野宿者に対する扱いも、前歴からの拒絶が世代を通して伝えられてきているのかもしれない。と、考え込んでしまう。

それか、ただ単に「自分とは違う」と右に倣えの日本の文化からもたらされた悪習なのかもしれない。

YWCA での夜回りをした時には、寝床を駐車場裏や植え込みと特異なところにしているなと思っていたが、今改めて思うと、それは人目を避けるためもあるが、生活に必要なトイレや食事の買い出しに近くもなく遠くもなく程よい距離に位置取っていたんだろう。ひとり旅と野宿生活は一緒くたに考えてはいけないが、人とふれあう、それが同情からくるものでも興味からくるものでもひとりで暮らしてる中では楽しみのひとつになっているなとこの旅を通じて感じた。

YWCA での夜回りの際にも、カイロやインスタントのみそ汁やほかほかおにぎりなどを渡し、たわいもない世間話や日々の状況を話していたが、

誰かと同じ時間を共有することにこそ意味がある。それが夜回りなんだな、と思った。おわり。

PS。石垣の街に出掛け土産物を買っていると、「野宿してるんですか？」と聞かれた。「そうです」と答えると、「ヤシガニやハブには気をつけて下さい」と助言を受けた。石垣での野宿は、非常にサバイバルなので夜間はご注意を。

夜回りに参加して

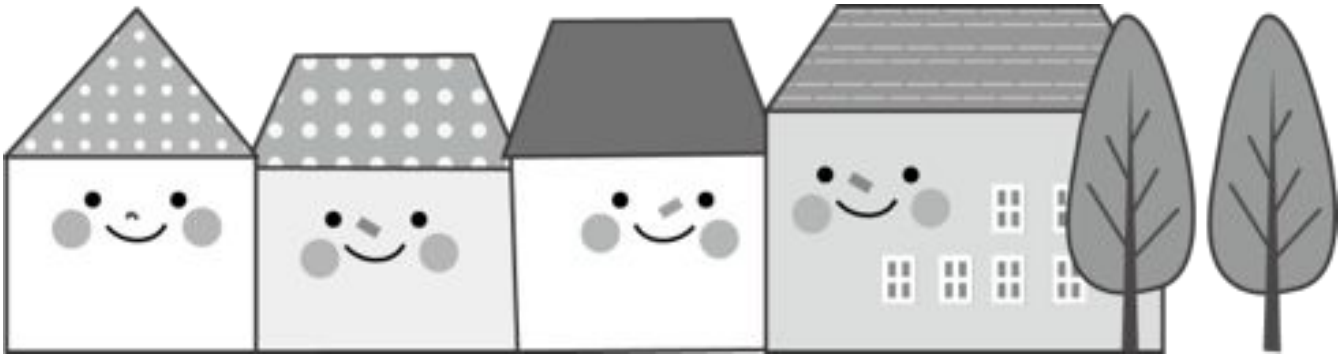
森脇　梓

2014 年の 10 月から夜回りに参加しています。参加して驚いたことが二つありました。一つ目は、夜回りで出会った方たちがラジオで野球中継を聞いたり、読書がお好きだったりと趣味を持っておられたことです。野宿をされている方は、もっと切羽詰まっていて、スポーツや文化を楽しむ余裕など持っておられないと思っていたので意外に感じました。と同時に、自分がいかに偏見を持っていたかということを思い知りました。誰だって暮らしの中に楽しみは必要です。家がないからといって、楽しみも一切ないということではありません。勝手に野宿をされている方のイメージを作り上げ、その型の中に押し込めようとしていたのだと気づき、反省しました。

二つ目は、野宿をされている方同士のネットワークが構築されていたことです。近くに住んでいる方同士ならともかく、わりと離れた場所に住んでいる人同士でもつながりがあることに驚きました。ここでも、勝手に抱いていた孤独なイメージが覆されました。

10 月から神戸市で資源ゴミ持ち去り禁止条例が施行されています。この条例によって生活を脅かされる方が大勢いると思われます。今後取り締まりが強化されていくのか注視しないといけません。この条例だけでなく、社会全体に一部の人たち（マイノリティ、外国人など）を排除する風潮が強まっており、懸念しています。

参加するようになってから近所の公園のベンチを見てみたら、見事にすべて仕切りが付けられていました。ここまでするかと、ぞっとしました。夜回りに参加するようになったおかげで問題意識を持つようになり、今まで気づかなかったことに気づけるようになりました。これからも参加を続け、様々な視点から社会を見つめ、自分に何ができるかを考えていきたいと思います。



神戸 YWCA 夜回り準備会　2013 年度会計報告（2013 年４月１日～2014 年３月 31 日）

【収入】　　【支出】

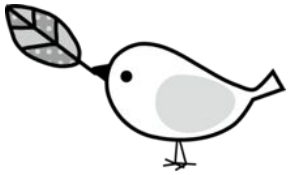
項目	金額	備考	項目	金額	備考
寄付金	184750	31 件	車両費	26700	燃料費、駐車料等
助成金	135000	NHK 歳末助け合い義援金 110000 円、ボランタリー基金 25000 円	物品費	108342	炊き出し食材費（越冬）、下着、蚊取り線香、カイロ、医薬品、コーヒー等
			印刷製本費	46340	活動報告印刷費
			通信費	15860	報告書発送費、振込手数料等
			支払寄付金	40000	神戸冬の家・越年越冬活動に協賛
			管理費	82508	分室維持管理費等
合計	319750		合計	319750	

寄附・寄贈報告

（自：2014 年３月１日～至：2015 年２月 28 日、敬称略）

青山幸夫　井上みち子　岩崎滋　岩村義雄　大川妙子　大久保生子　岡田有生
大森美津子　小倉覚　加納功　亀岡恒雄　川辺比呂子　桑野洋子　金光教松原教会
後藤安子　斎藤彰　佐光健　下川潤　高木不折　竹原邦雄　谷合義旦　田花安子　田平正子
鄭秀珠・下田隆清・由楽　塚原久雄　鶴崎祥子　寺内真子　中尾廣美　中川一央
中桐寿子　中島紀子　中田作成　長澤毅　西島明子　西山秀樹　二宮百合子
野々村耀　野村麻裕　春本幸子　東根順子　藤井由美子　藤岡正雄　堀泰雄
正木紀通　牧野哲　松本智子　松本博子　三浦啓子　宮地京子　村瀬健介　森崎武雄
山本かえ子　山本容子　吉田英二　横林賢治　米岡史之　渡邊つたえ　ほか匿名

毎年りんごを送ってくださる吉田さんをはじめ、毛布や衣類など物資の面でも、多くの方からカンパをいただきました。ありがとうございました。また、第４土曜の夜回り前に美味しいおにぎりを握ってくれている、山本容子さん、宮地京子さん、ホェンさん、冨山悦子さん、川北ユキ子さん、いつもありがとうございます。
万一、お名前の漏れや間違いがありましたら、ご一報いただけるとありがたいです。



【編集後記】

★ 徐々に薄くなってきていたこのところの報告書。しかし、今回は思いがけずかなりのボリュームになりました。漫画を入れるのに苦戦したり、ページのずれとたたかったり。あいかわらず手探りの技術ではありますが、なんとか形になりました。なんだかんだ、こういうものをつくる作業が好きなんだなぁと我ながら思います（時間さえあれば…）。夜回りで出会う人は本当に少なくて、夜回り準備会という名前のまま、夜回りはしなくなるのかもしれません。でも、関心を持ってきてくれる人からのあらたな問題提起もあり、つながったメンバーで、どんなことができるのか、まだ考えることはいっぱいありそうです。（なべたに）

※ 今号の報告書は、「26 年度 NHK 歳末助け合い義援金」の助成を受けてつくりました。

神戸YWCA 夜回り準備会（仮） 活動報告書 Vol.10 2015 年 3 月 31日発行

編 集 金本美子・立川献・鍋谷美子・野々村耀・森脇梓
発 行 神戸YWCA 夜回り準備会（仮）
【神戸YWCA 本館】 〒651-0093 神戸市中央区二宮町1-12-10
TEL：078-231-6201 FAX：078-231-6692
【神戸YWCA 分室】 〒651-0062 神戸市中央区坂口通5-2-16 神戸YWCA 分室
TEL＆FAX：078-221-5111
【E-mail】yomawari@kobe.ywca.or.jp 【URL】http://www.kobe.ywca.or.jp/NOJUKU/nojuku.html
【郵便振替】01100-0-10298 公益財団法人神戸YWCA
【銀行口座】 三井住友銀行 三宮支店（普)1015232 公益財団法人神戸YWCA
※夜回り準備会へのご寄付は、郵便振替用紙にその旨明記するか、上記連絡先にご一報ください。

《参加者募集しています！》夜回りや病院訪問などに参加したいという方は、上の連絡先までご連絡ください。